ESET PROTECT ソリューション

サーバーのリプレイスに伴う
ESET PROTECT V10.1 の移行手順
(サーバーの IP アドレスやコンピュータ名を変更しない場合)

第 2 版

2024 年 7 月 31 日

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

目次

1. はじめに 3

2. 本資料における構成の前提 4

3. 新サーバーへの EP 移行フロー 5

4. 作業をはじめる前に 7

5. ［STEP1］ 旧サーバーにてデータベースのバックアップ取得 8

6. ［STEP2］ 新サーバーの IP アドレス及びコンピュータ名の変更 13

7. ［STEP3］ 新サーバーにて ESSW のインストール 18

8. ［STEP4］ 新サーバーにてミラーサーバーの構築 23

9. ［STEP5］ リストアと EP インストール 26

10. ［STEP6］ EP サーバーのセットアップ 42

1. はじめに

○ 本資料は、ESET PROTECT ソリューションをご利用のお客さまがサーバーのリプレイス時に ESET PROTECT V10.1 の移行を行う際、必要となる作業や注意事項について記載しております。

○ 本資料は、本資料作成時のソフトウェア、並びに、ハードウェアの情報に基づき作成されております。ソフトウェアのバージョンアップなどにより、記載内容とソフトウェアに搭載されている機能、及び、名称が異なっている場合があります。また本資料の内容は、将来予告なく変更を行うことがございます。

○ 本資料の画面イメージは、Windows Server 2016、及び、Windows Server 2019 をベースに作成しております。そのため、OS によっては記載内容と名称が異なっている場合がございます。

○ 本製品の一部またはすべてを無断で複写、複製、改変することはその形態問わず、禁じます。

○ Microsoft, Windows, Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における商標または、登録商標です。ESET, ESET Server Security, ESET PROTECT はスロバキア共和国 ESET,LLC ならびに ESET,spol. s. r. o.に帰属します。本資料の著作権は、キヤノンマーケティングジャパン株式会社に帰属します。その他の製品名及び社名などは、各社の商標または登録商標です。

2. 本資料における構成の前提

本資料は、以下の構成を前提として、サーバーのリプレイス時に ESET PROTECT V10.1 を移行する為のフローや注意点を記載しております。

移行前

		旧サーバー
全体構成		・一台のサーバーで管理とミラーを運用 ・専用サーバーで運用 ・ESET Bridge の利用なし ・モバイル管理なし ・オンライン環境
OS		・Windows Server 2016
ESET 製品	オンプレミス型セキュリティ管理ツール	・ESET PROTECT V10.1.29.2 (略称 EP)
	ウイルス・スパイウェア対策	・ESET Server Security for Microsoft Windows Server V10.0.12012.1 (略称 ESSW)
	ミラー	・2022 年 5 月 31 日公開のミラーツール
利用データベース		・Microsoft SQL Server 2019 Express Edition (略称 MSSQL)

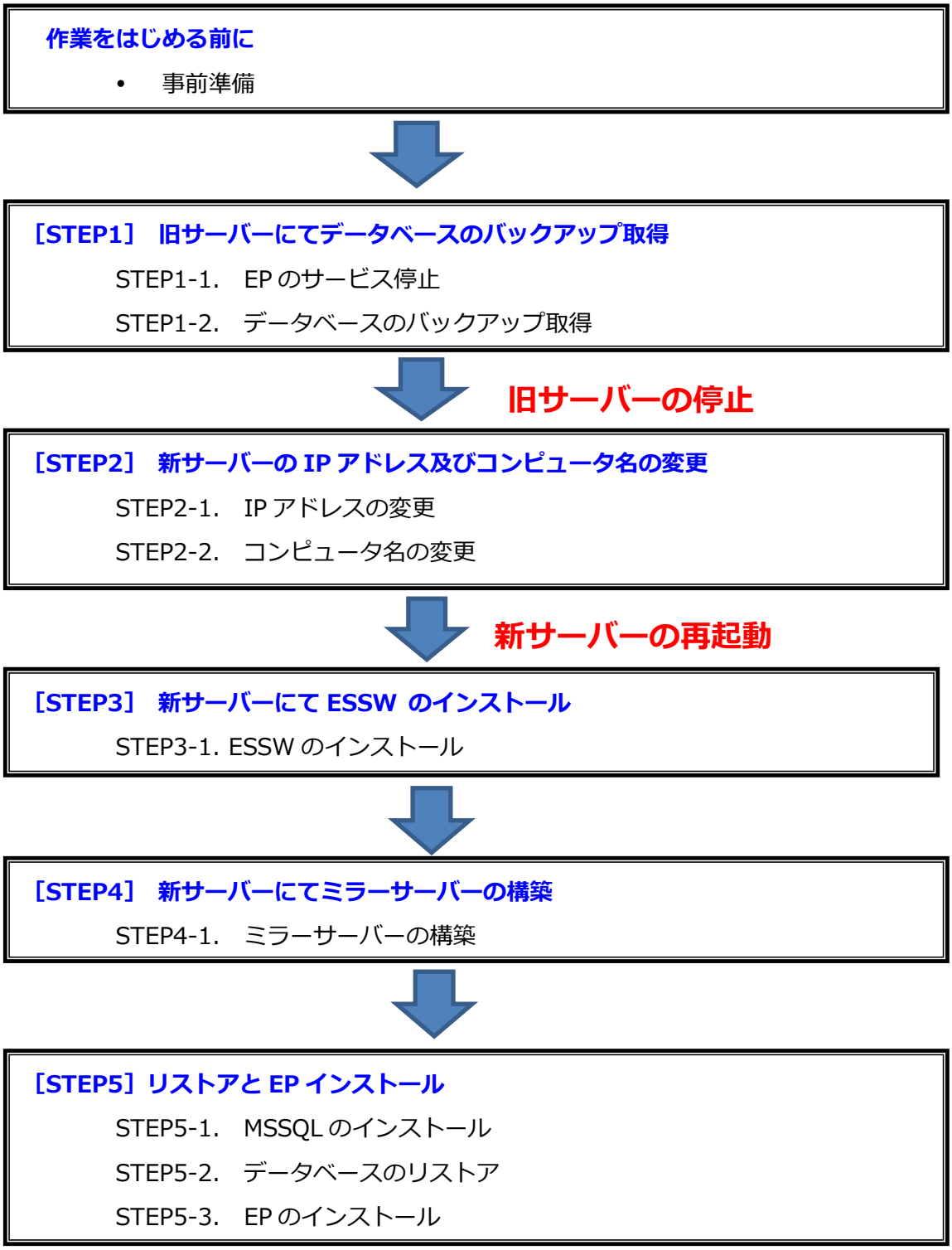
移行後

		新サーバー
全体構成		・一台のサーバーで管理とミラーを運用 ・専用サーバーで運用 ・ESET Bridge の利用なし ・モバイル管理なし ・オンライン環境 ・旧サーバーと同じ IP アドレスとコンピュータ名
OS		・Windows Server 2019
ESET 製品	オンプレミス型セキュリティ管理ツール	・ESET PROTECT V10.1.29.2 (略称 EP) ※
	ウイルス・スパイウェア対策	・ESET Server Security for Microsoft Windows Server V10.0.12012.1 (略称 ESSW)
	ミラー	・2022 年 5 月 31 日公開のミラーツール
利用データベース		・Microsoft SQL Server 2019 Express Edition (略称 MSSQL)

※ 移行前と移行後の ESET PROTECT は完全に同一のバージョンである必要があります。

3. 新サーバーへの EP 移行フロー

サーバーリプレイスに伴う、EP と ESSW の移行に必要なステップは以下の通りです。



［STEP6］EP サーバーのセットアップ

STEP6-1.　EM エージェントの証明書変更

STEP6-2.　EP サーバーの証明書変更

STEP6-3.　クライアントの接続確認

＜参考＞

インターネットから直接検出エンジンのアップデートを行っている場合は、【STEP4　ミラーサーバーの構築】の必要はありません。

4. 作業をはじめる前に

事前準備

移行作業を始める前に、以下について事前にご用意いただきますようお願いいたします。

本手順書は以下のプログラムを**旧サーバーと新サーバー**の両方で使用します。
事前にインストールをお願いいたします。
・SQL Server Management Studio19.X
URL：https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/ssms
※インストールには時間がかかる場合がございます。

以下のプログラムは、**新サーバー**で使用します。ユーザーズサイトより、ダウンロードをお願いいたします。（インストールは手順書内で行います。）
[ユーザーズサイト]
URL：https://canon-its.jp/product/eset/users/index.html
※ユーザーズサイトにログインするにはシリアル番号とユーザーズサイトパスワードが必要です。

・ESSW のインストーラー
※ユーザーズサイトで[プログラム/マニュアル]-[クライアント用プログラム]-[基本的な/総合的なエンドポイント保護]-[Windows Server 向けプログラム]と進むとインストーラーがございます。

・EP のオールインワンインストーラー
※ユーザーズサイトで[プログラム/マニュアル]-[オンプレミス型セキュリティ管理ツール（ESET PROTECT）]-[ESET PROTECT]と進むとインストーラーがございます。

・2022 年 5 月 31 日公開のミラーツール
※ユーザーズサイトで[プログラム/マニュアル]-[クライアント用プログラム]-[基本的な/総合的なエンドポイント保護]- [オプション（各種ツール）]-[ミラーツール]-[Windows Server 向けミラーツール]と進むとミラーツールがございます。

また、ESSW のアクティベーション時に使用する以下の情報をご確認ください。
・「製品認証キー」を使用する場合
本資料では製品認証キーを使用したアクティベーション方法でご案内しております
※ユーザーズサイトの[ライセンス情報/申込書作成]-[アクティベーション情報(プログラムの利用に必要な情報)]にある[製品認証キー]をお控えいただきますようお願いいたします。

・「ESET Business Account」、「ESET PROTECT HUB」を使用する場合
上記を利用したアクティベーション方法は下記よりご確認ください。
◇クライアント用プログラムの製品のアクティベーションをおこなうには？
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/48?site_domain=business
※詳細や開設方法につきましては下記サポートサイトをご参照ください。
◇ ESET Business Account について
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/19554?site_domain=business
◇ESET PROTECT HUB について
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/29662?site_domain=business

5. ［STEP1］ 旧サーバーにてデータベースのバックアップ取得

STEP1-1. SQL Server Management Studio 19 のインストール

1. 以下 URL より、SQL Server Management Studio 19 をダウンロードし、サーバーへインストールしてください。

   <SQL Server Management Studio ダウンロードサイト>
   https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/ssms
   ※インストール後、再起動が要求された場合は再起動します。

2. 「Microsoft SQL Server Management Studio19」を起動できることを確認します。
   ※初めて起動する場合、起動に少々お時間がかかります。

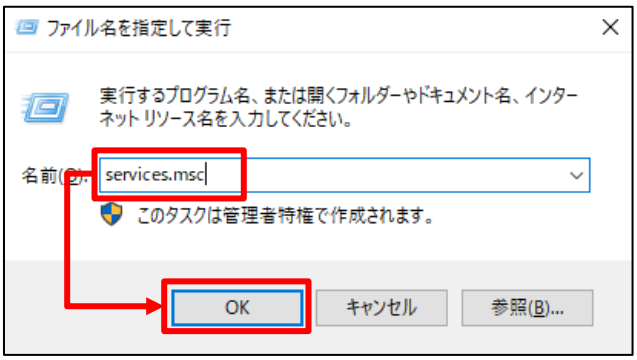
STEP1-2. EP のサービス停止

旧サーバーのデータベースのバックアップを取得するために、以下の手順を参照して EP のサービスを停止させます。

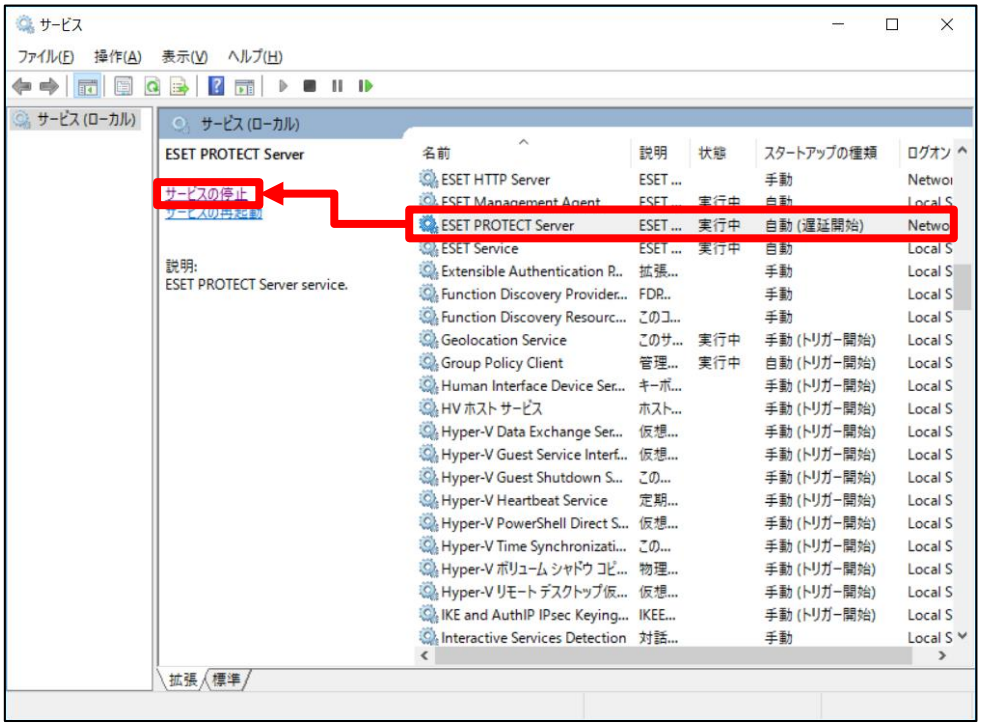
＜注意＞

旧サーバーでバックアップを取得後、各クライアントが新サーバーに接続し始めるまでの間、各クライアントが収集したログは旧サーバーに送られます。
そのため、バックアップ取得後のログは、新サーバーに移行できませんので、ご注意ください。

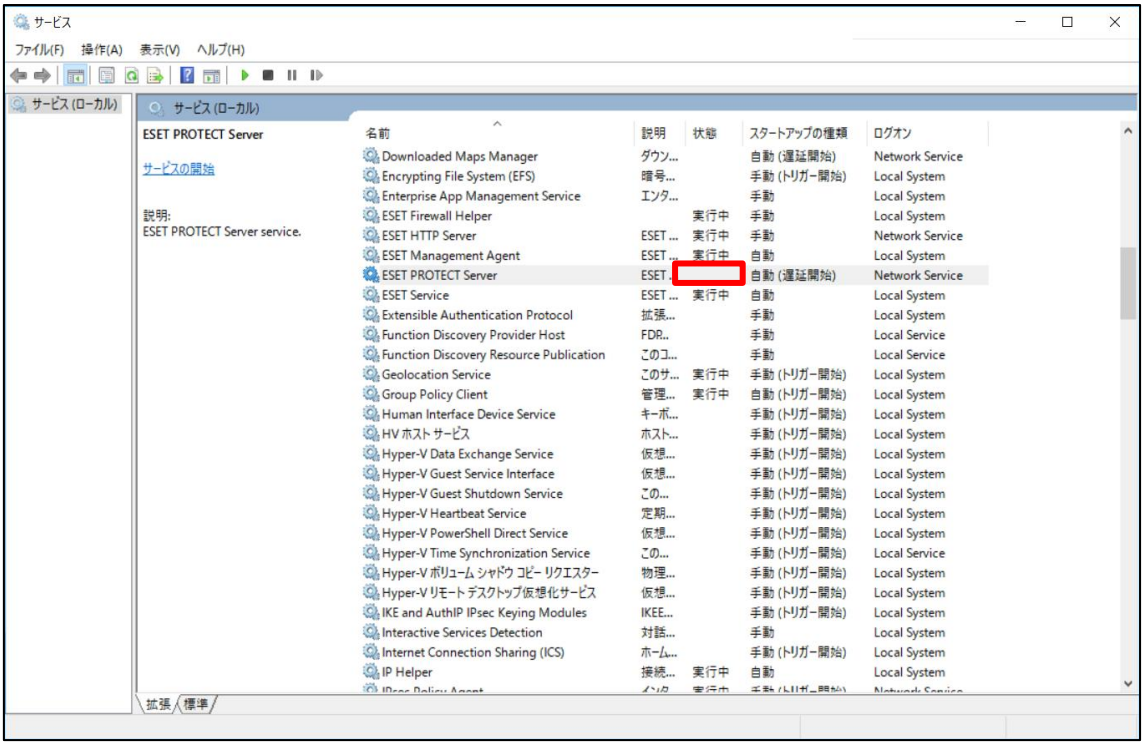
1. [Windows キー]＋[R]で[ファイル名を指定して実行]ウィンドウを開き[services.msc]と入力し、[OK]をクリックします。



2. [ESET PROTECT Server]サービスを選択し、[サービスの停止]をクリックします。



3. [ESET PROTECT Server]サービスの[状態]が空欄になったことを確認します。

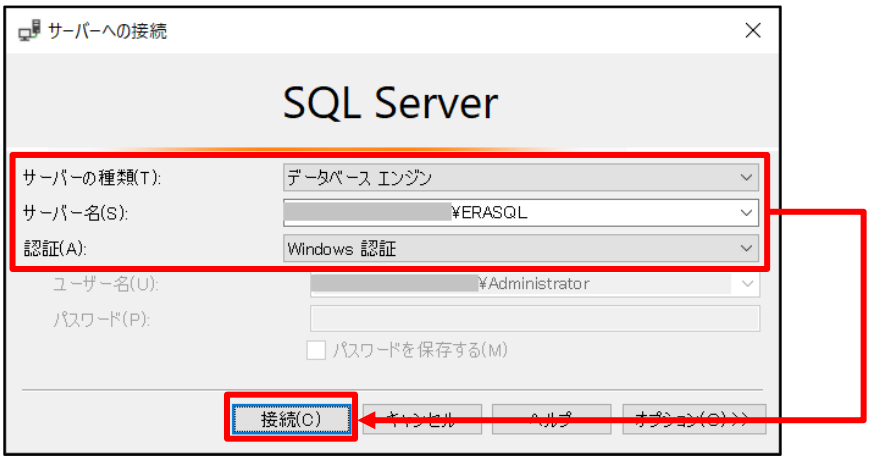


STEP1-3. データベースのバックアップ取得

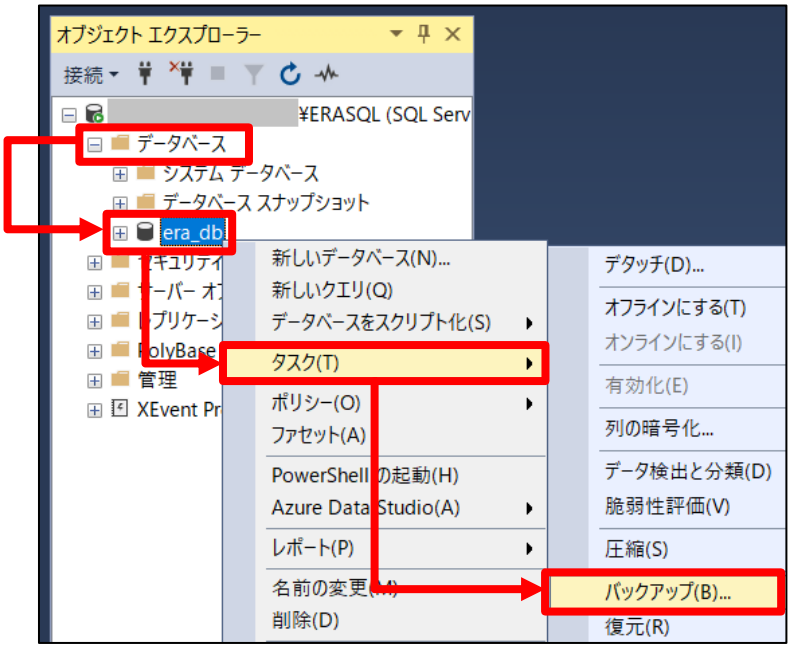
旧サーバーで取得したデータを新サーバーに移行するために、以下の手順を参照して旧サーバーのデータベースのバックアップファイルを作成してください。

1. [Microsoft SQL Server Management Studio 19]を起動します。
   ※初めて起動される場合、起動までお時間がかかる場合がございます。

2. サーバーへの接続画面で、項目が以下のようになっていることを確認して[接続]をクリックします。
   サーバーの種類：データベースエンジン
   サーバー名：旧コンピュータ名¥ERASQL
   認証：Windows 認証



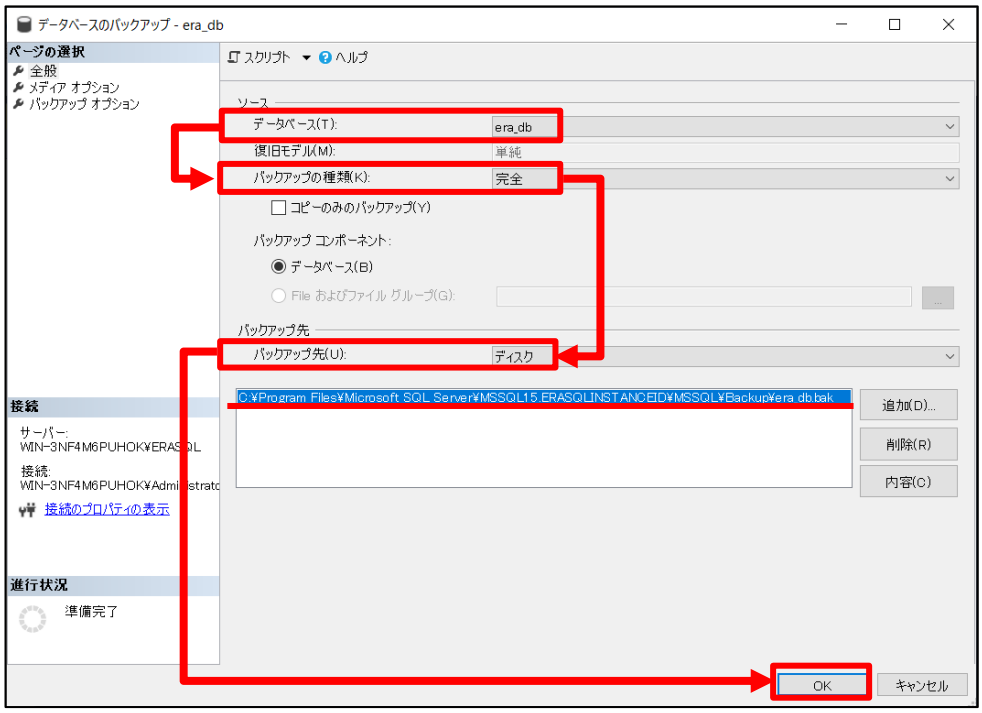
3. オブジェクトエクスプローラーから[データベース]-[era_db]に移動し、[era_db]を右クリックし、[タスク]-[バックアップ]をクリックします。



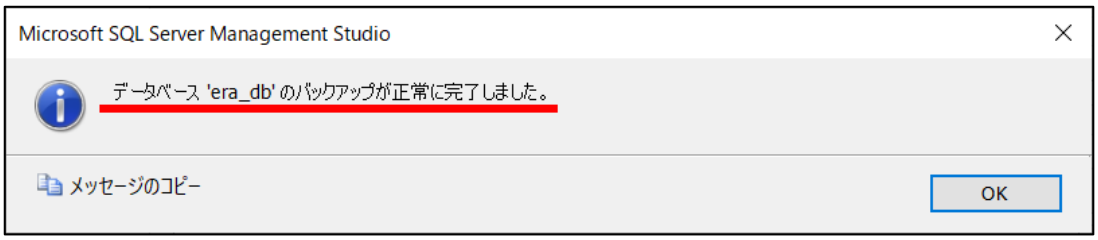
4. 表示された画面で項目を以下のように設定し、[OK]をクリックします。

ソース	
データベース	era_db
バックアップの種類	完全
バックアップ先	
バックアップ先	ディスク

※既定では以下のフォルダーに、バックアップファイル(era_db.bak)が作成されます。
C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥ MSSQL15.ERASQLINSTANCEID ¥MSSQL¥Backup



5. 以下のメッセージが表示されたらバックアップは正常に完了しています。
[データベース'era_db'のバックアップが正常に完了しました。]



※[アクセスが拒否されました]といったエラーが出力された場合は、
バックアップファイルの出力先にアクセスする権限があるかご確認ください

6. 作成したバックアップファイルを新サーバー上に移行します。

続いては、新サーバーの IP アドレスとコンピュータ名を旧サーバーと同じものに変更します。旧サーバーの IP アドレスとコンピュータ名をご確認のうえ、お控えください。

＜参考＞

サーバーリプレイスに伴い、旧サーバーの ESSW が不要になった場合は、アクティベーションを解除すると新サーバーや他の端末でライセンスを使用することができます。通常は、ESSW のアンインストールでアクティベーションを解除することが可能です。アクティベーション解除について、詳細は以下をご参照してください。

URL: https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/4304?site_domain=business

以上で旧サーバーのデータベースバックアップ取得手順は終了です。
ここで、旧サーバーの電源をお切りください。

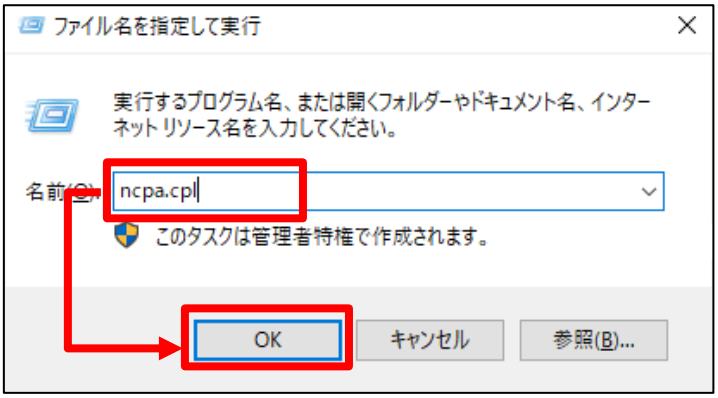
ここからは全て新サーバーでの作業となります。

6. ［STEP2］ 新サーバーの IP アドレス及びコンピュータ名の変更

STEP2-1. IP アドレスの変更

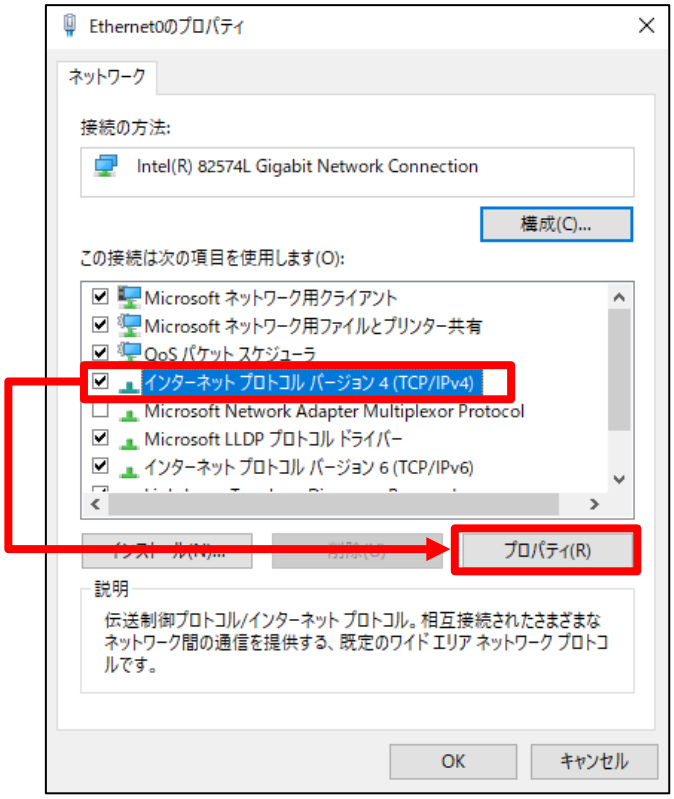
新サーバーの IP アドレスを旧サーバーの IP アドレスに変更します。

1. [Windows キー] + [R] で [ファイル名を指定して実行] ウィンドウを開き [ncpa.cpl] と入力し、[OK] をクリックします。

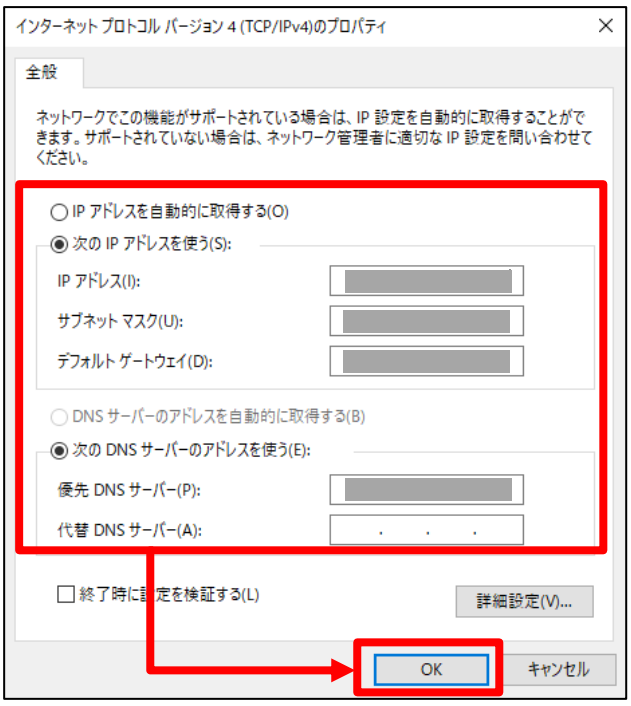


2. ご利用のネットワークアダプタを選択し、右クリックで [プロパティ] を開きます。

3. [インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)]を選択し、[プロパティ]をクリックします。



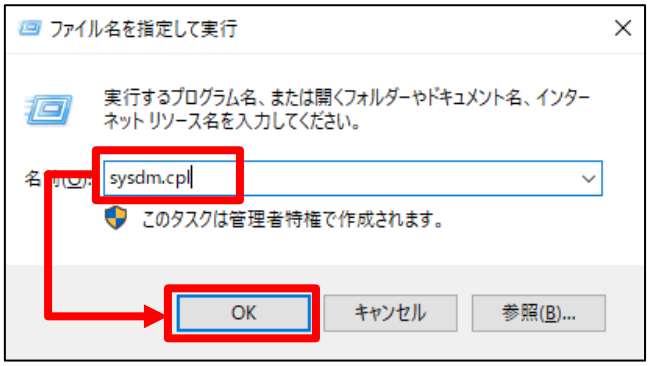
4. **旧サーバーの IP アドレスやサブネットマスクなど**を設定し、[OK]をクリック、プロパティを閉じます。



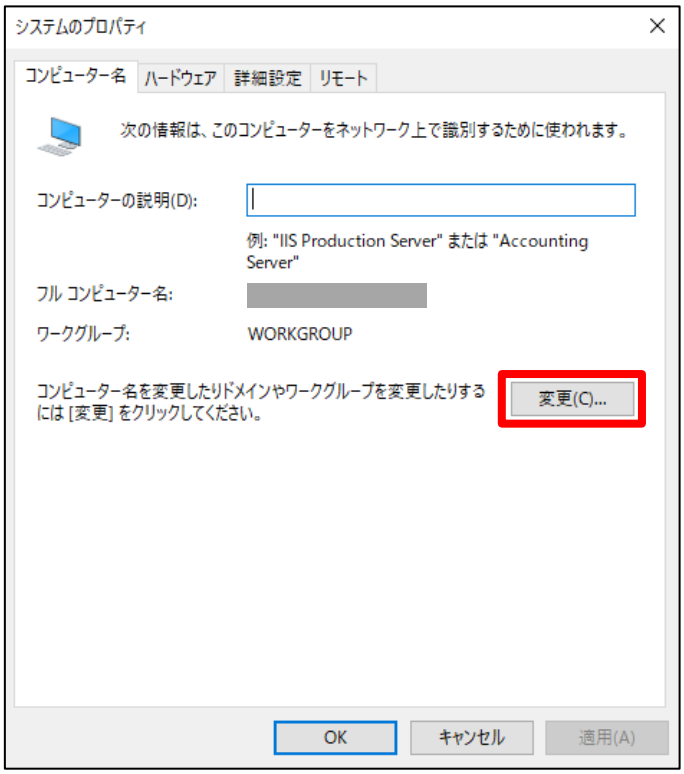
STEP2-2. コンピュータ名の変更

新サーバーのコンピュータ名を旧サーバーのコンピュータ名に変更します。

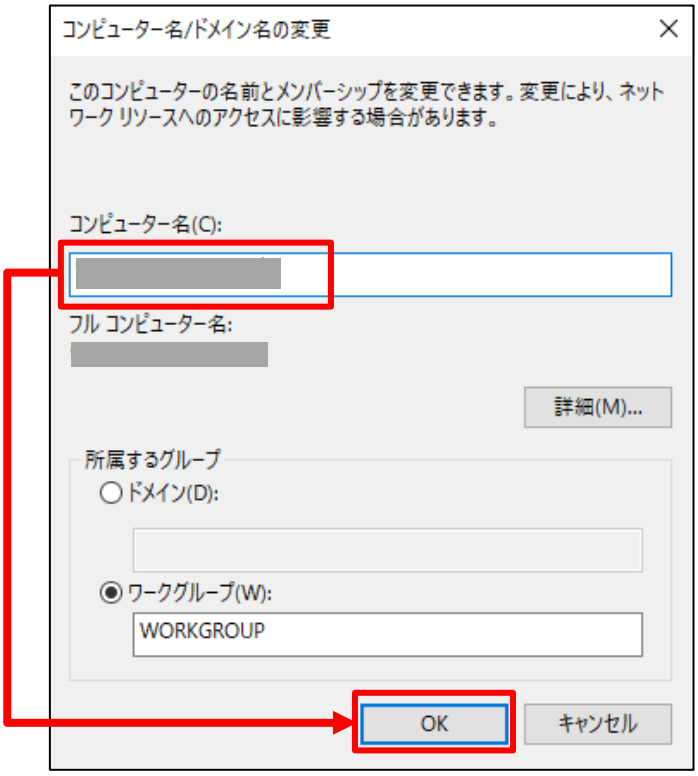
1. [Windows キー] + [R] で [ファイル名を指定して実行] ウィンドウを開き [sysdm.cpl] と入力し、[OK] をクリックします。



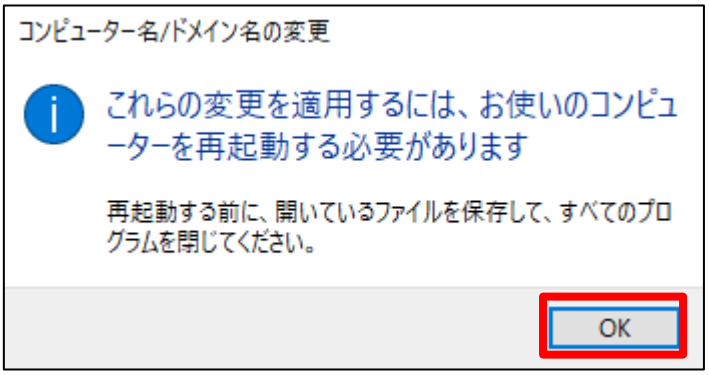
2. [変更] をクリックします。



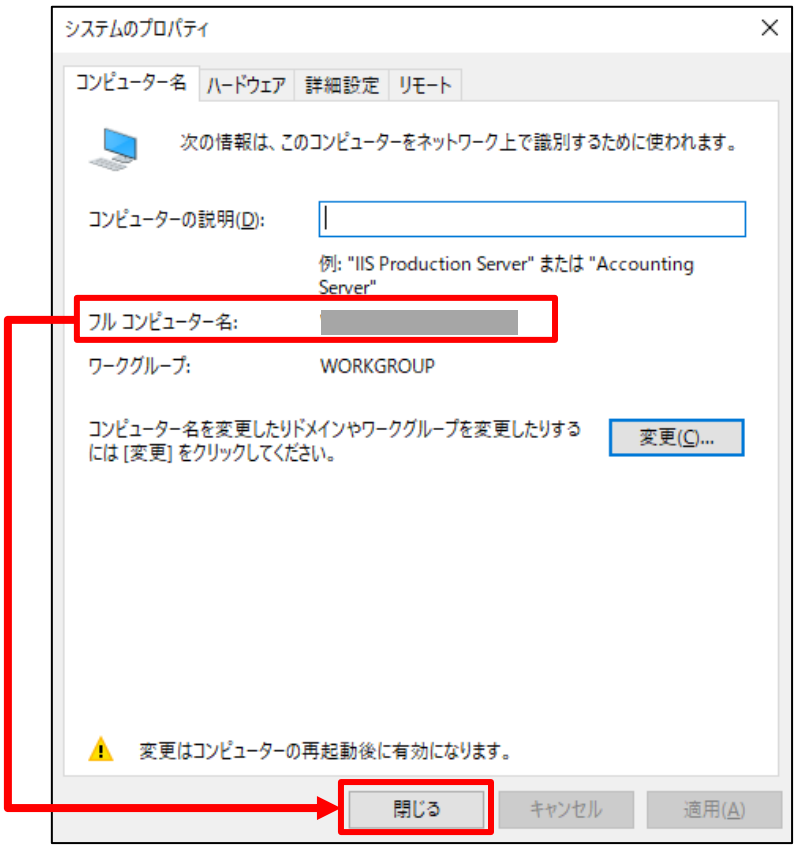
3. コンピュータ名に**旧サーバーのコンピュータ名**を入力し、[OK]をクリックします。



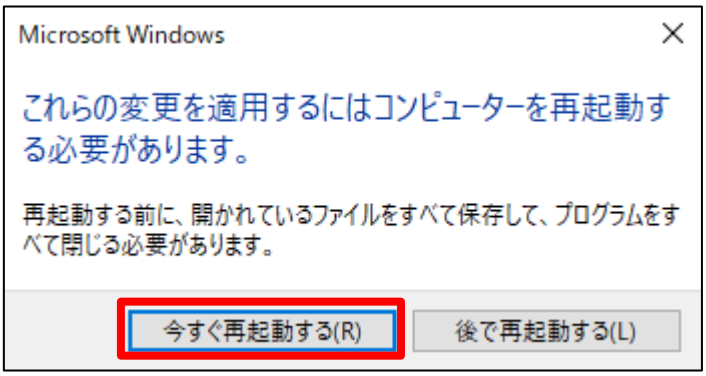
4. [OK]をクリックします。



5. フルコンピュータ名が旧サーバーのコンピュータ名になっていることを確認し[閉じる]をクリックします。



6. [今すぐ再起動する]をクリックし、再起動します。



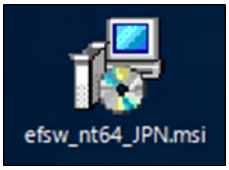
以上で、IP アドレスとコンピュータ名の変更手順は終了です。
再起動が終了したら、新サーバーに ESSW のインストールを行います。

7. ［STEP3］ 新サーバーにて ESSW のインストール

新サーバーに ESSW をインストールします。
※旧サーバーの ESSW で設定している設定については新サーバーで再度設定してください。
なお、旧サーバーの設定を読み込ませながらインストールを行う、設定読み込み型インストールもございます。詳細は以下の Web ページをご参照ください。
URL：https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/20?site_domain=business

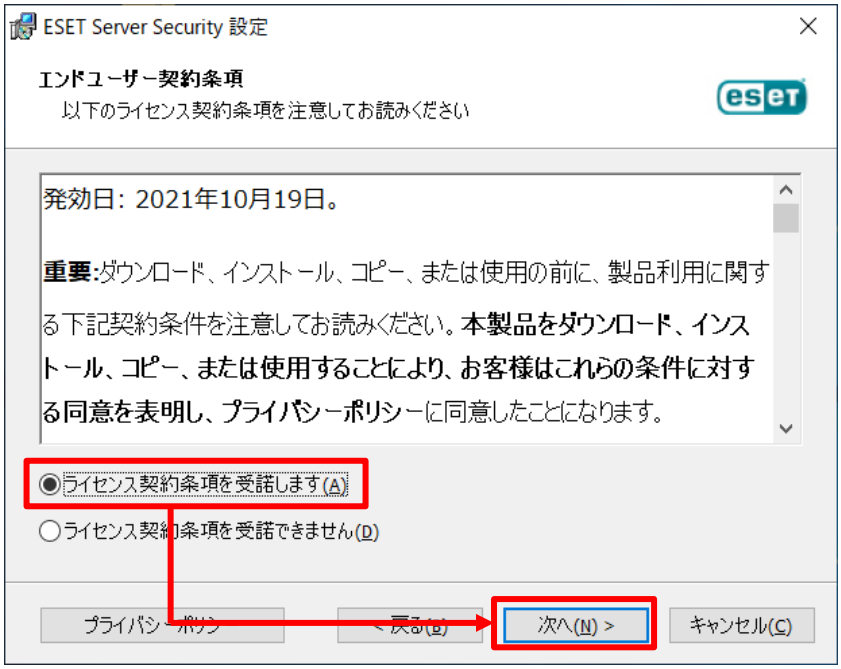
STEP3-1. ESSW のインストール

1. 事前準備で用意した ESSW のインストーラー[efsw_nt64_JPN.msi]もしくは、[efsw_nt64_full_JPN.msi]をダブルクリックします。



2. ESET Server Security セットアップウィザードが表示されましたら、[次へ]をクリックします。

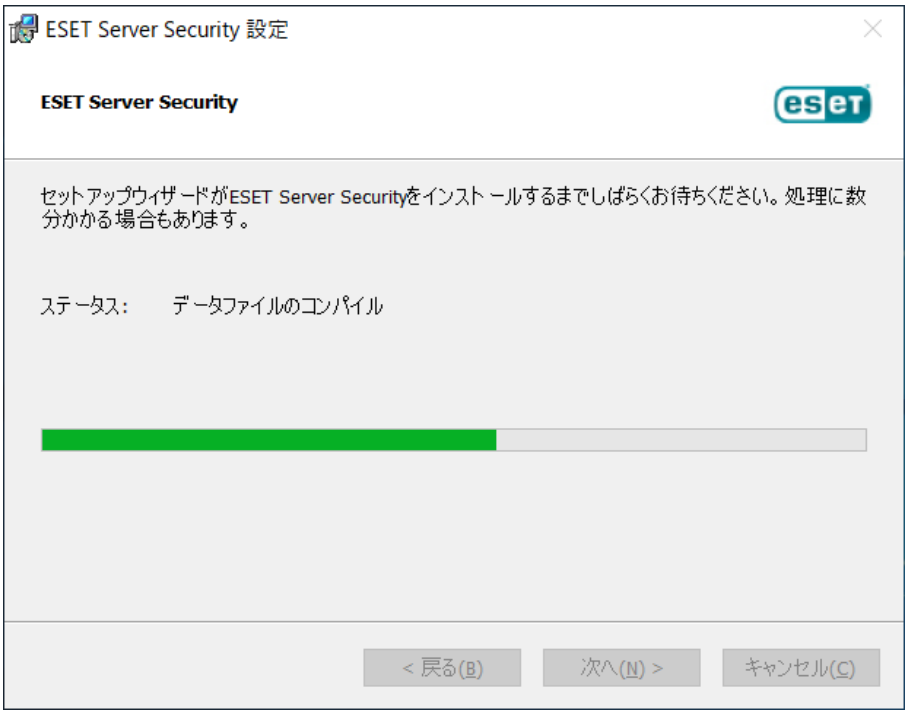
3. エンドユーザー契約条項を受諾し、[次へ]をクリックします。



4. [完全]を選択し、[次へ]をクリックします。

5. インストールするフォルダーを選択し、[インストール]をクリックします。
※既定では以下のフォルダーにそれぞれインストールされます。

6. インストールが開始されます。
※ユーザーアカウント制御の画面が表示された場合は、[はい]ボタンをクリックします。

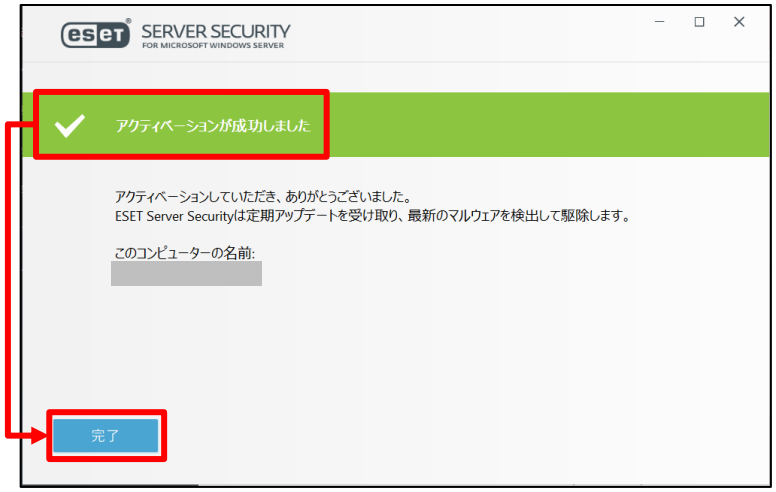


7. [ESET Server Security セットアップウィザードを完了しています]と表示されましたら、[完了]をクリックし、インストールを完了させます。

8. 以下の画面が表示されましたら、アクティベーション方法を選択します。
本手順では、[購入した製品認証キーを使用]をクリックしてアクティベーションをおこないます。
※その他のアクティベーション方法については P7 の事前準備をご確認ください。

9. 製品のアクティベーション画面が表示されますので、製品認証キーを入力して、[続行]をクリックします。
※製品認証キーについては、P7 の事前準備をご確認ください。

10. [アクティベーションが成功しました]と表示されましたら、[完了]をクリックします。



11. 以下のような画面が表示されましたら、お客様のご利用条件に合わせて、不審なアプリケーションの検出有無、ESET LiveGrid®フィードバックシステム参加有無を選択します。

以上で、ESSW のインストールは終了です。

8. ［STEP4］ 新サーバーにてミラーサーバーの構築

※インターネットから直接検出エンジンのアップデートを行っている場合は、【STEP4 ミラーサーバーの構築】の必要はありません。

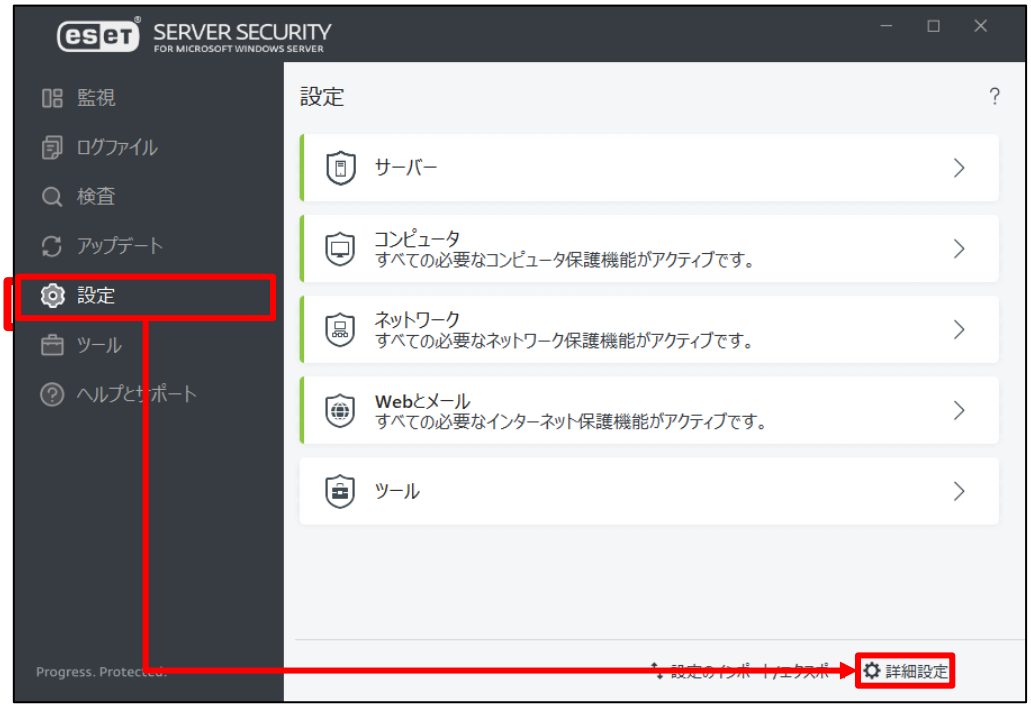
STEP4-1. ミラーサーバーの構築

1. 以下のサポート情報を確認し、ミラーツールを使用してミラーサーバーを構築してください。

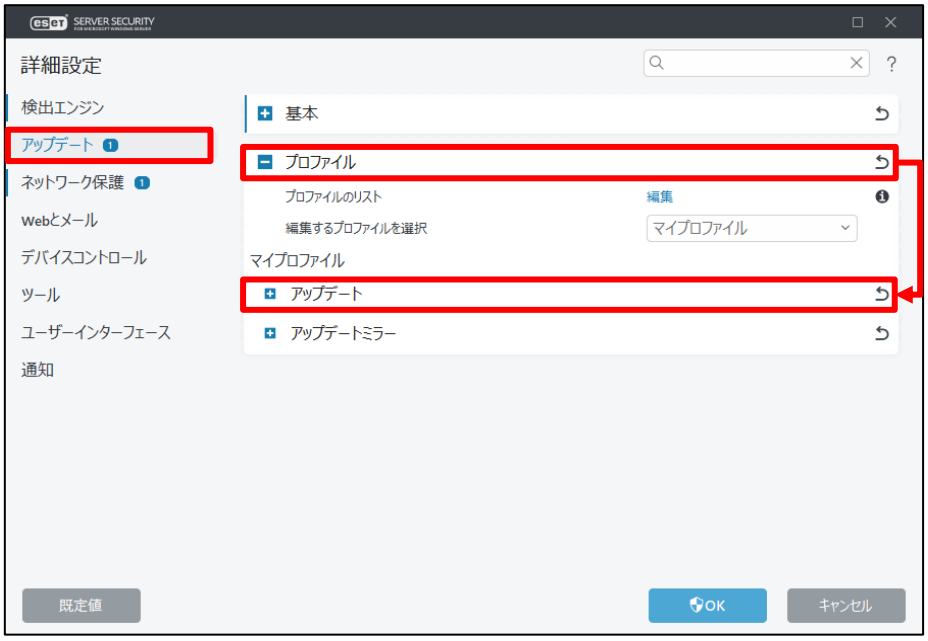
   ■Windows Server 環境でミラーツールを使用してミラーサーバーを構築するには？
   https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/4341?site_domain=business

   ■IIS を利用して検出エンジンを公開する手順
   https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/9499?site_domain=business

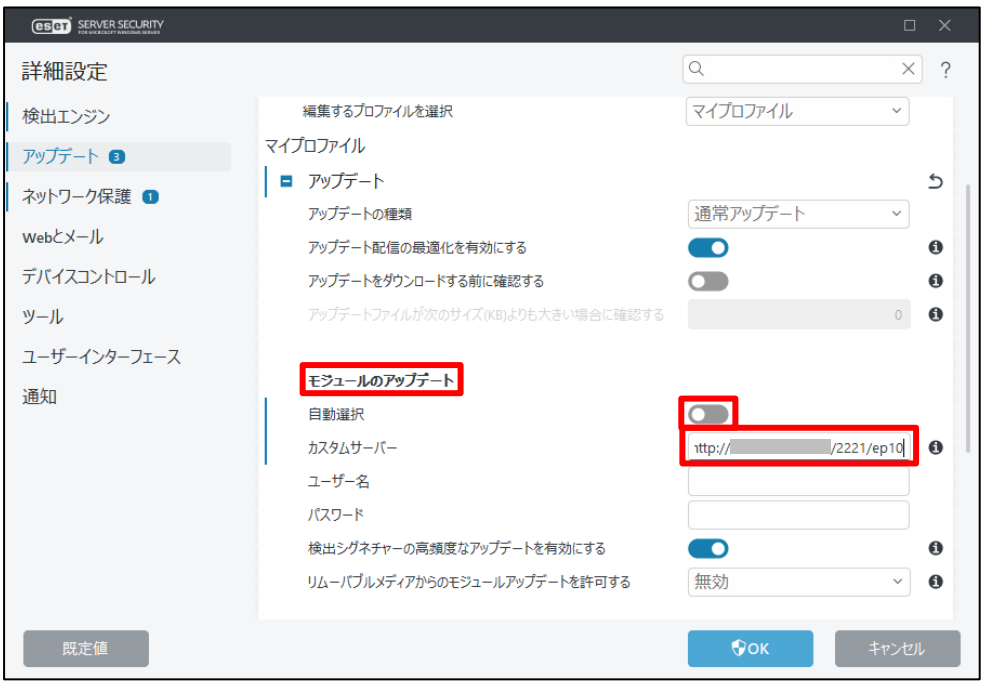
2. ESSW のアップデート先を設定します。
   ESET の基本画面より、[設定]-[詳細設定]をクリックします。



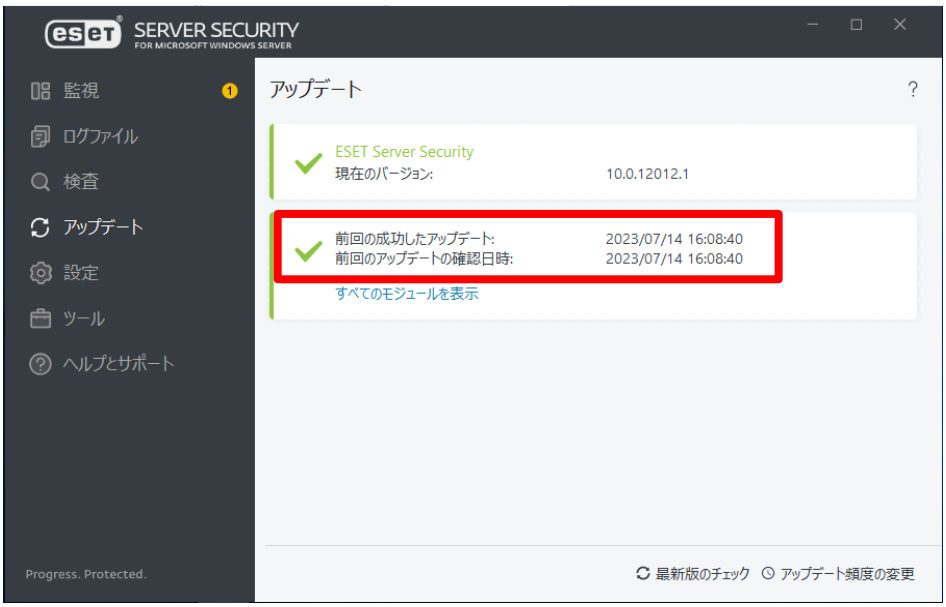
3. [アップデート]-[プロファイル]-[アップデート]をクリックします。



4. [モジュールのアップデート]下の「自動選択」の項目を無効にし、カスタムサーバーに「ミラーサーバー（新サーバー）の URL を入力して、「OK」をクリックします。
   例）http://localhost:2221/ep10
   ※ミラーサーバーの既定ポート番号：2221



5. 自動的にアップデートが開始されますので、ESET の基本画面の「アップデート」に移動し、[前回のアップデートの確認日時]が更新されていることを確認します。



以上で、ミラーサーバーの構築は終了です。
続いては、リストア作業と EP のインストールを行います。

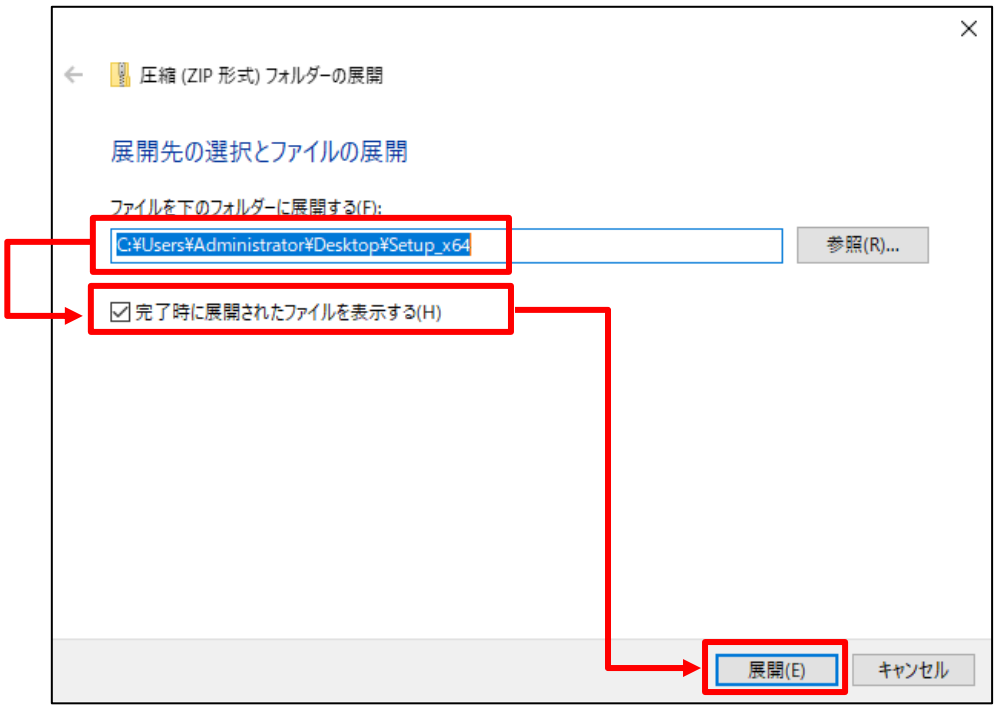
9. ［STEP5］ リストアと EP インストール

STEP5-1. MSSQL のインストール

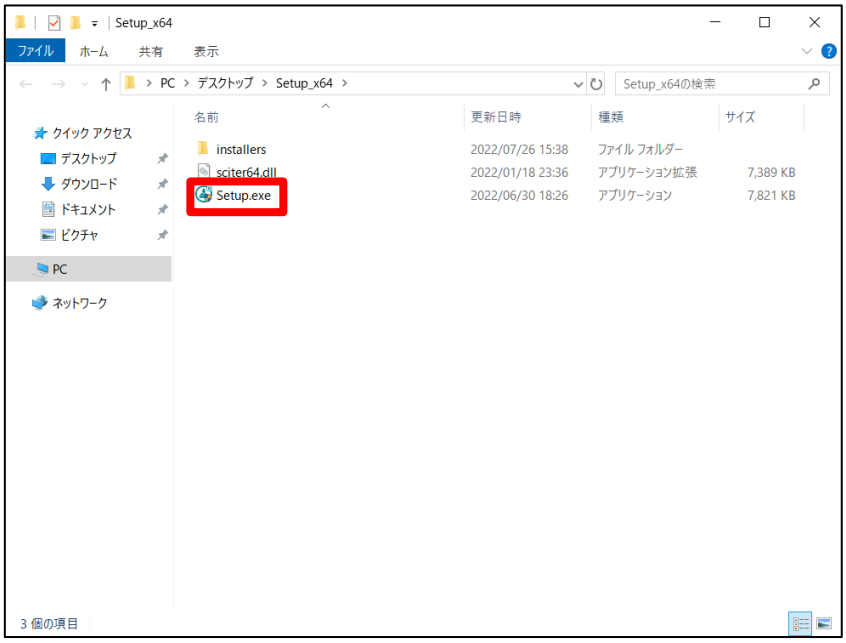
EP のオールインワンインストーラーを使用して、MSSQL を先にインストールします。
※本作業では EP のオールインワンインストーラーのセットアップを一時中断して
STEP5-2.に移ります。そのため、セットアップを最後まで進めないようご注意ください。
※事前に SQL Server Management Studio 19 をインストールしておいて下さい。

1. 事前準備で用意した EP のオールインワンインストーラー[Setup_x64.zip]を右クリックし、[すべて展開]をクリックします。

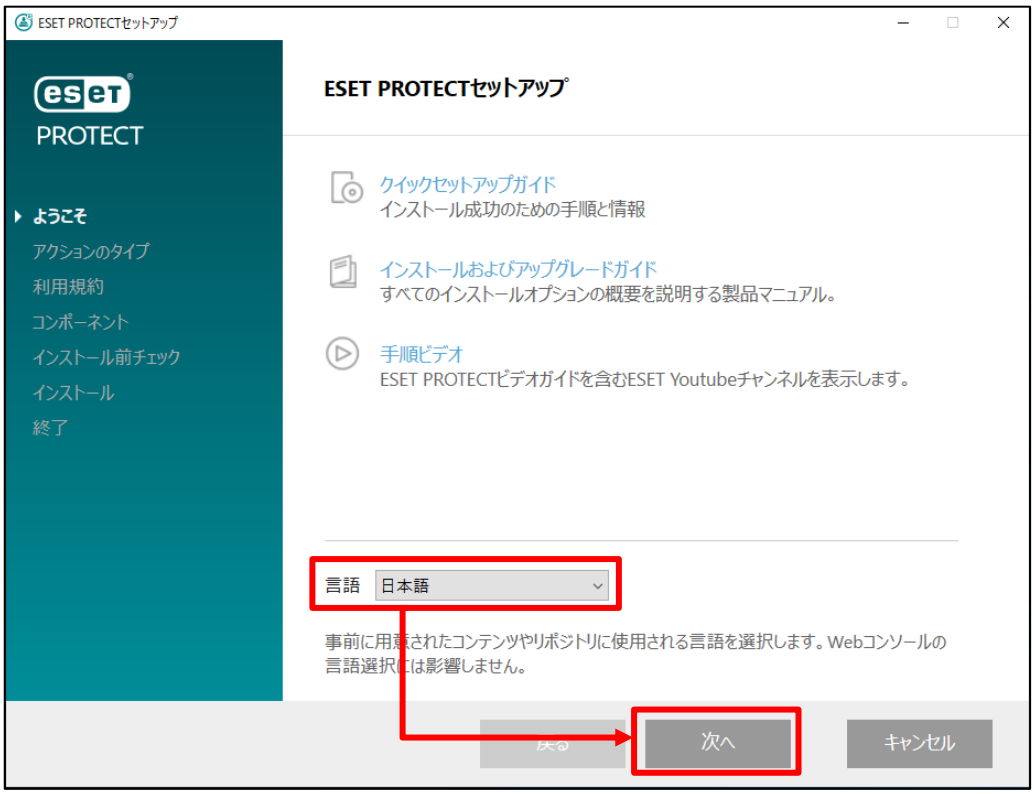
2. ファイルを展開させるフォルダーを選択し、以下の項目がチェックされていることを確認して、[展開]をクリックします。
□完了時に展開されたファイルを表示する



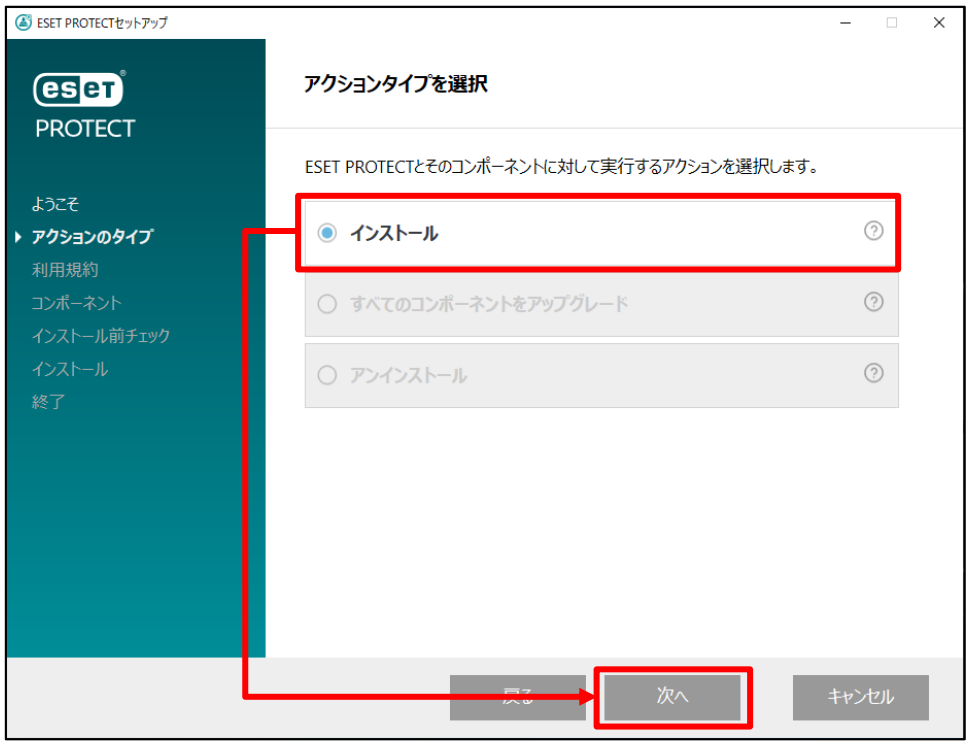
3. 展開されたファイルが表示されましたら、[Setup.exe]をダブルクリックしてオールインワンインストーラーを起動します。
※ユーザーアカウント制御の画面が表示された場合は、[はい]ボタンをクリックします。



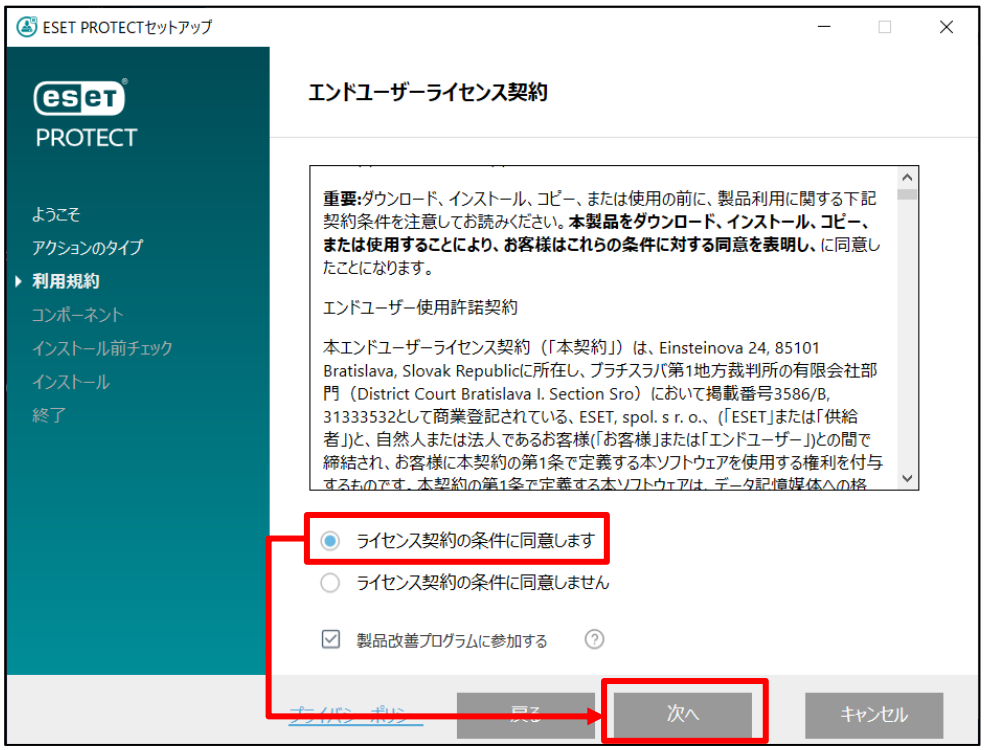
4. 言語は日本語を選択し、[次へ]をクリックします。



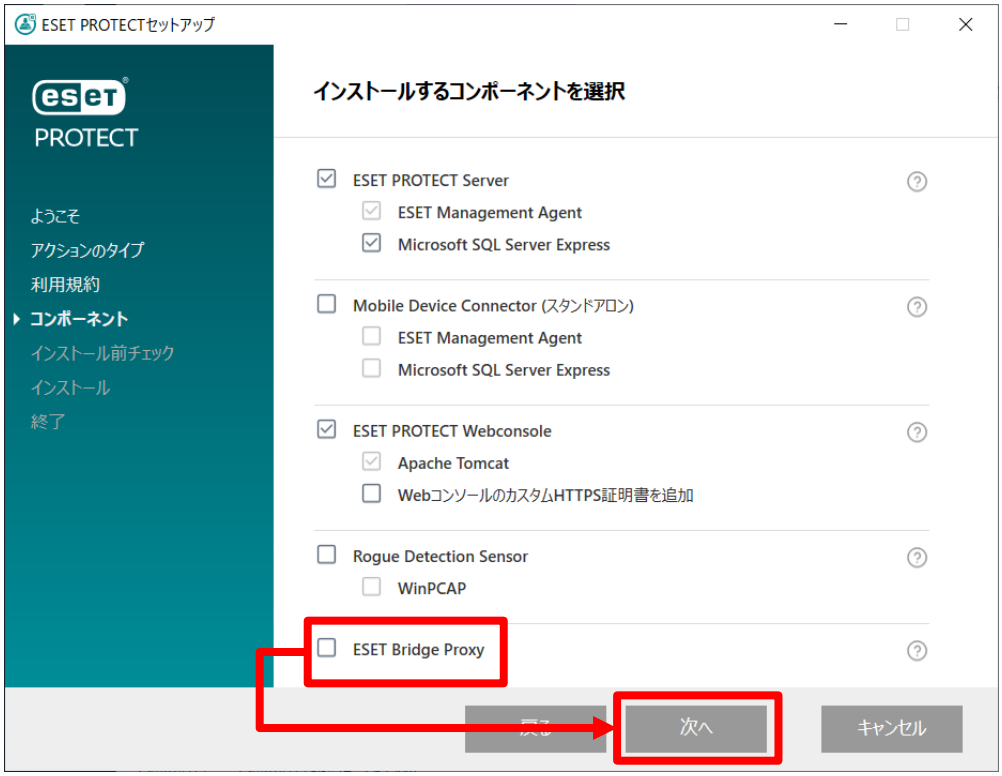
5. 以下の項目を選択されていることを確認して、[次へ]をクリックします。
   ⦿インストール



6. エンドユーザーライセンス契約に同意して[次へ]をクリックします。

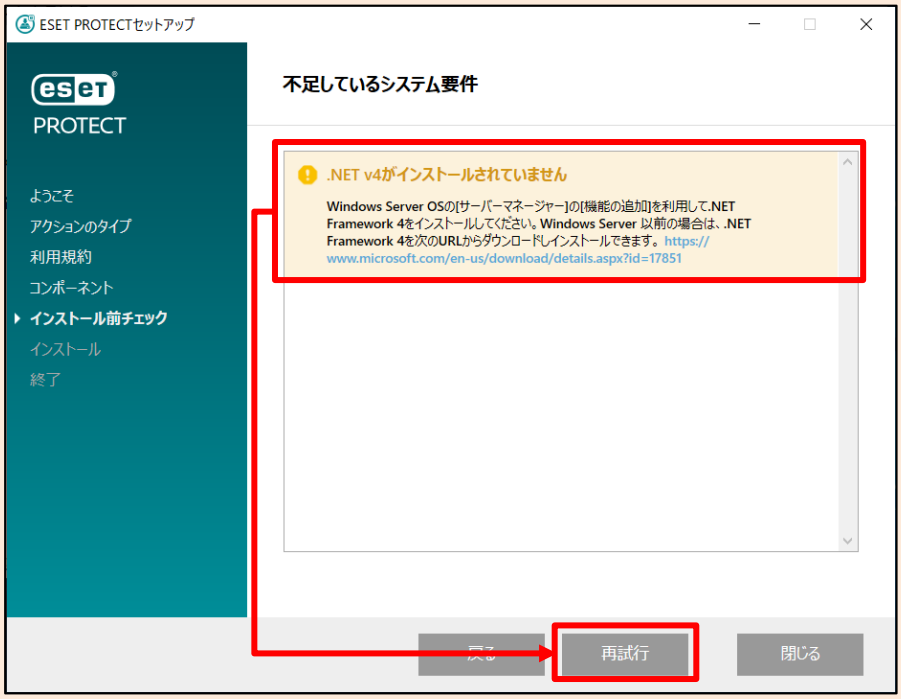


7. **[ESET Bridge Proxy]のチェックを外し、**[次へ]をクリックします。
※Rogue Detection Sensor のインストールは任意です。

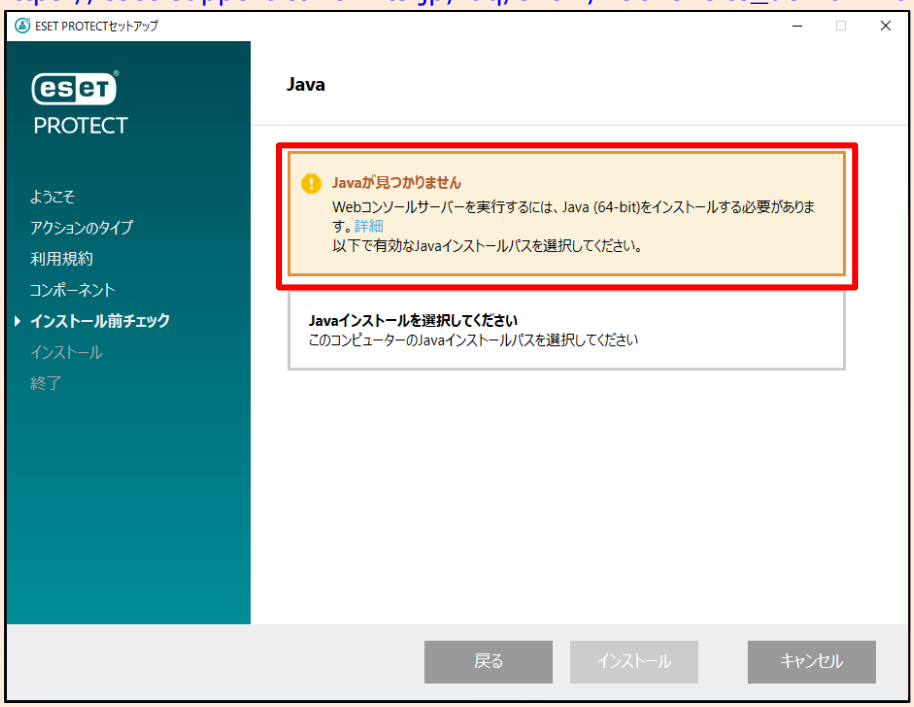


<参考>

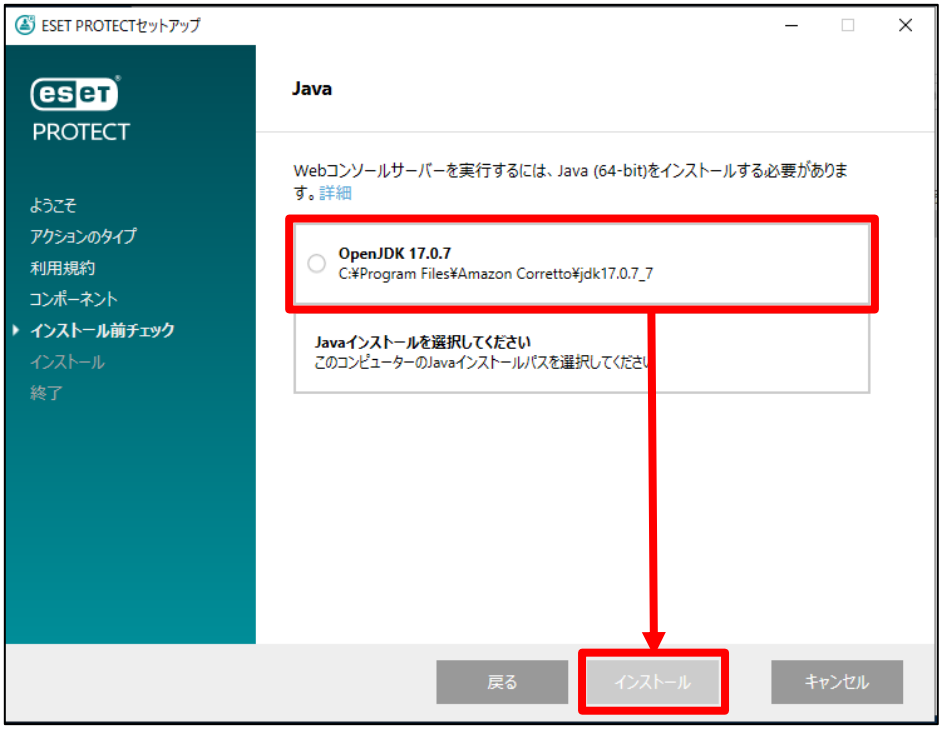
以下のようなエラーが表示されましたら、[Microsoft .NET Framework 4]をインストールし、その後、[再試行]をクリックしてください。



さらに、以下のようなエラーが表示されましたら、64bit 版の Java をインストールする必要があります。Java をインストールして、[インストール]をクリックしてください。
なお、オープンソース JDK を利用して構築される場合は以下のサイトを参照してインストールを行ってください。
URL：https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/13029?site_domain=business



8. Web コンソールで使用する 64bit 版の Java を選択し、[インストール]をクリックします。
   ※本手順書では、オープンソース JDK を利用します。

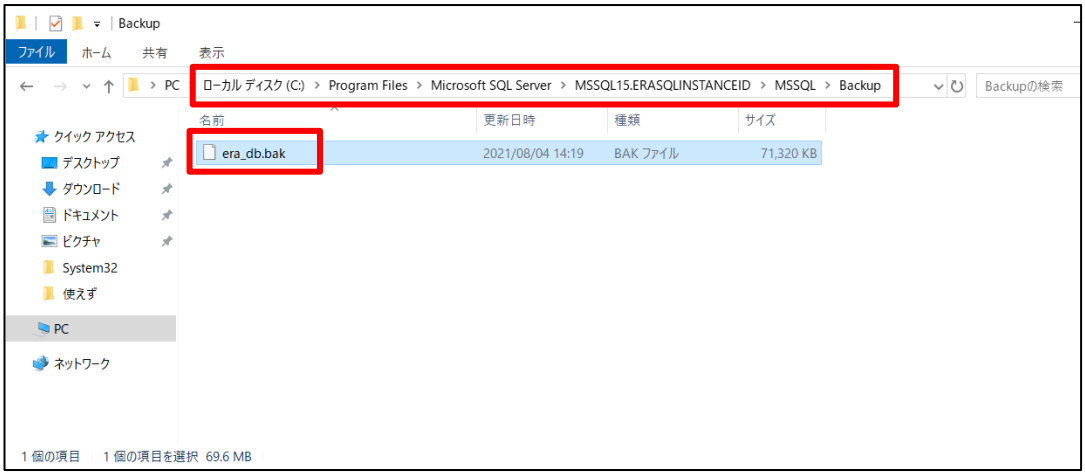


9. ESET PROTECT Server セットアップウィザードが表示されましたら、**[次へ]をクリックせずに**、最小化してください。

STEP5-2. データベースのリストア

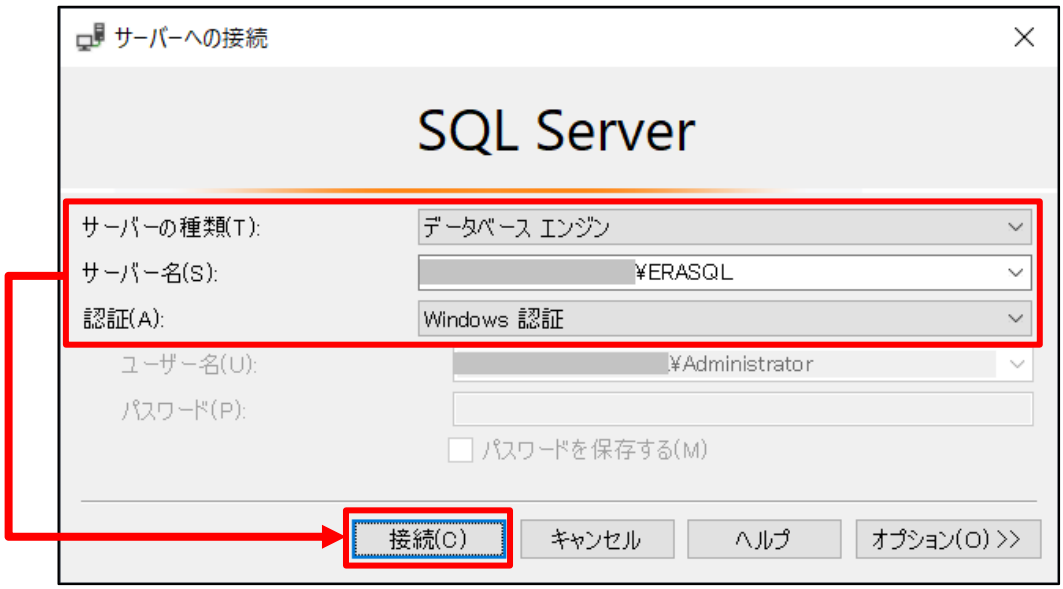
[STEP1]で作成した旧サーバーのデータベースのバックアップファイルを使って、新サーバーにリストアを行います。以下の手順で、データベースのリストアを行ってください。

1. STEP1-3.で作成した、バックアップファイル(era_db.bak)を以下のフォルダーに移動してください。
   C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL15.ERASQLINSTANCEID¥MSSQL¥Backup

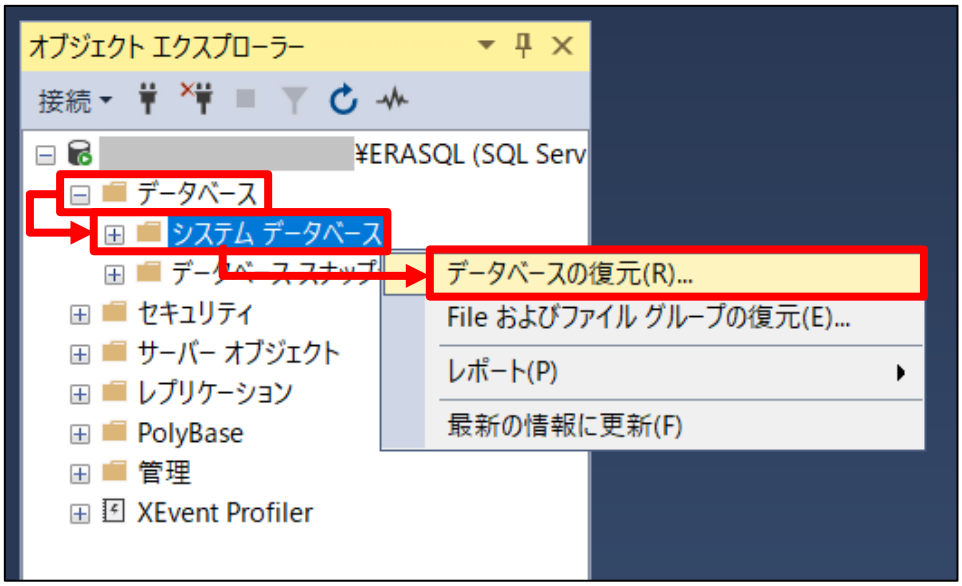


2. [Microsoft SQL Server Management Studio 19]を起動します。
   ※初めて起動される場合、起動まで少々お時間がかかる場合がございます。

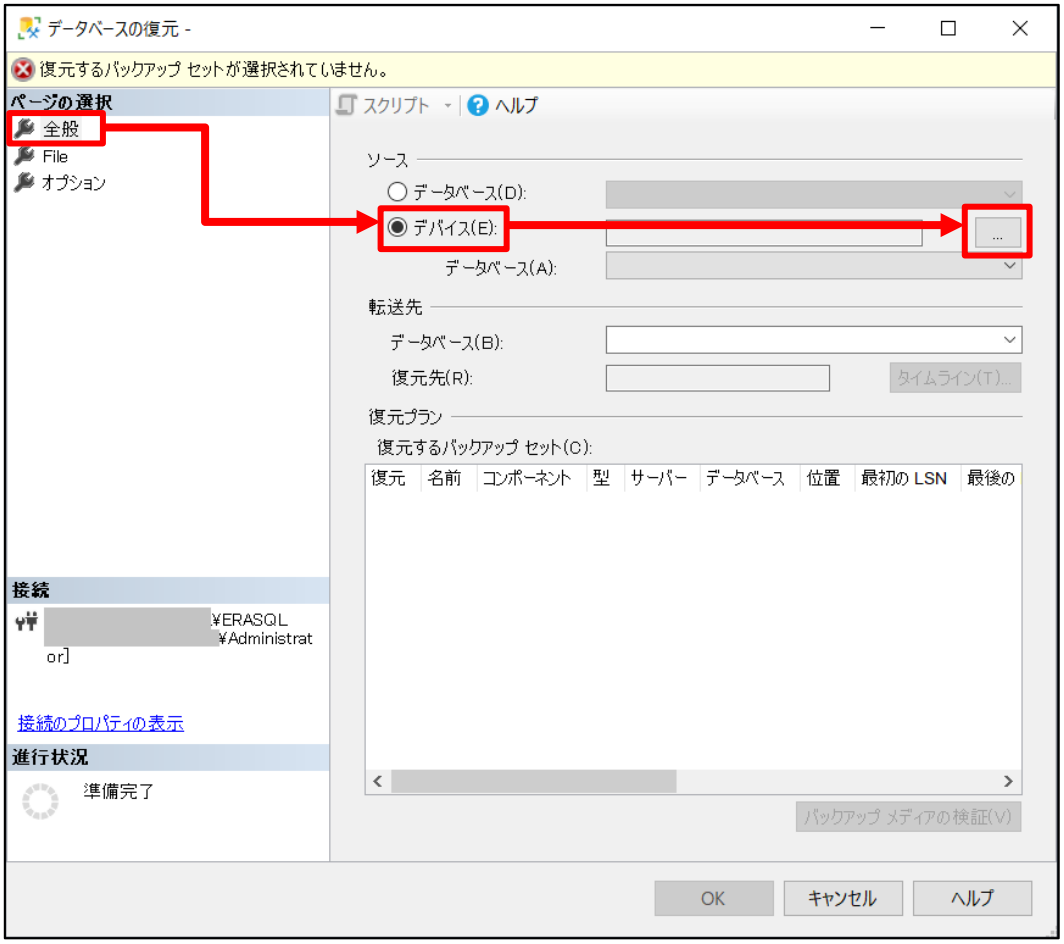
3. サーバーへの接続画面で、項目が以下のようになっていることを確認して[接続]をクリックします。
   サーバーの種類：データベースエンジン
   サーバー名：新コンピュータ名¥ERASQL
   認証：Windows 認証



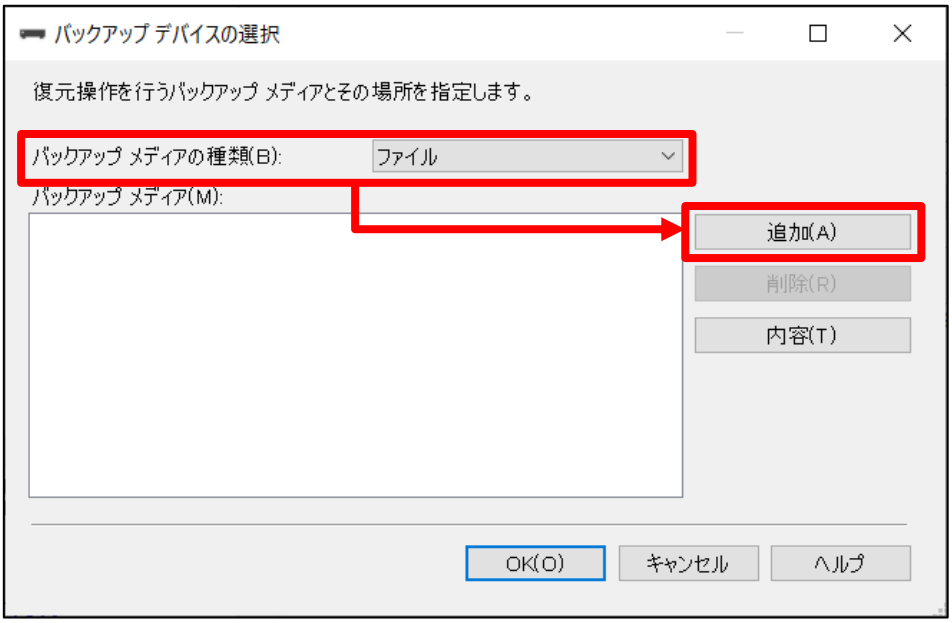
4. オブジェクトエクスプローラーから[データベース]-[システムデータベース]に移動し、[システムデータベース]を右クリックして[データベースの復元]をクリックします。



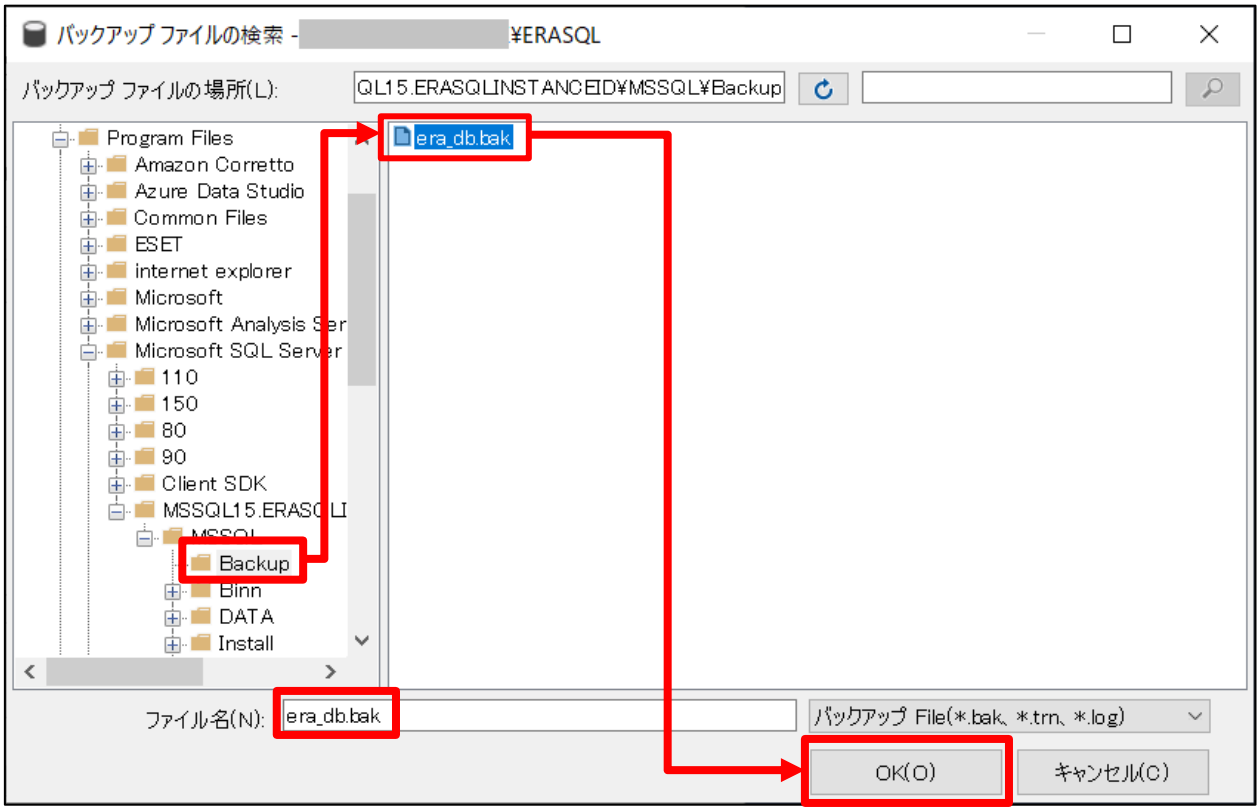
5. [全般]ページで以下の設定を選択し、[...]をクリックします。
⦿デバイス



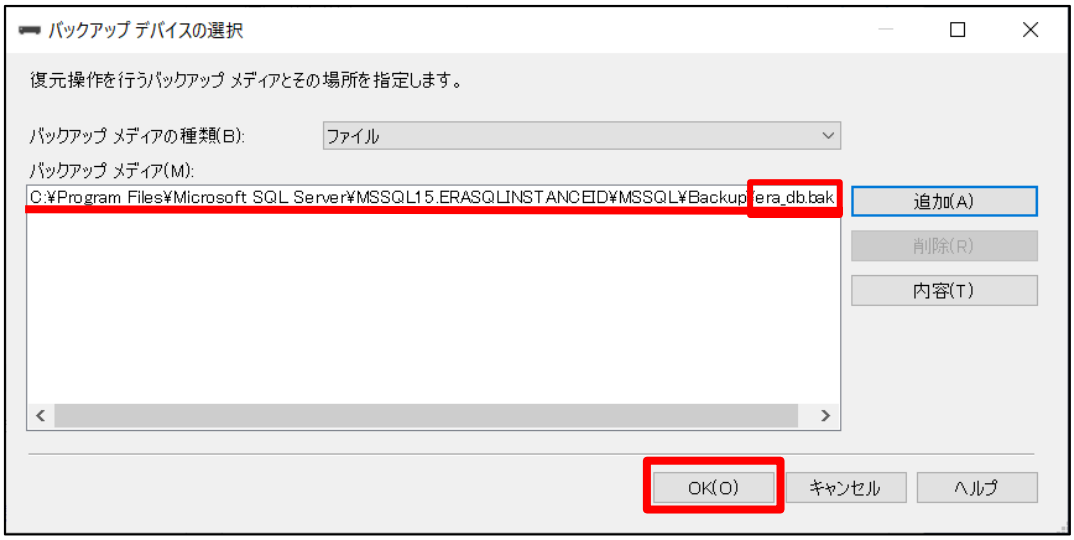
6. [バックアップデバイスの選択]画面で、以下の設定になっていることを確認し、[追加]をクリックします。
   バックアップ メディアの種類：ファイル



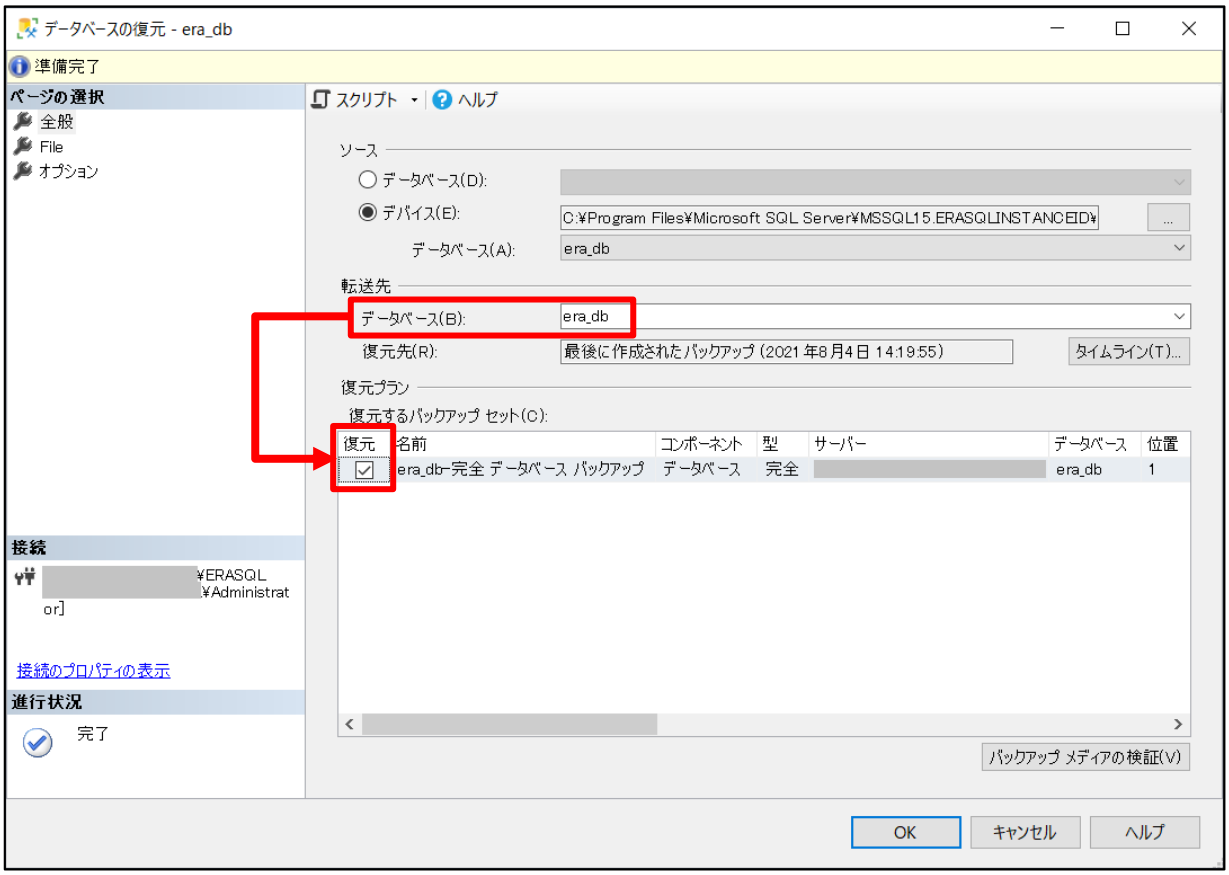
7. 手順 1 で移動させたバックアップファイル(era_db.bak)を選択し、[OK]をクリックします。



8. [era_db.bak]が追加されていることを確認して、[OK]をクリックします。

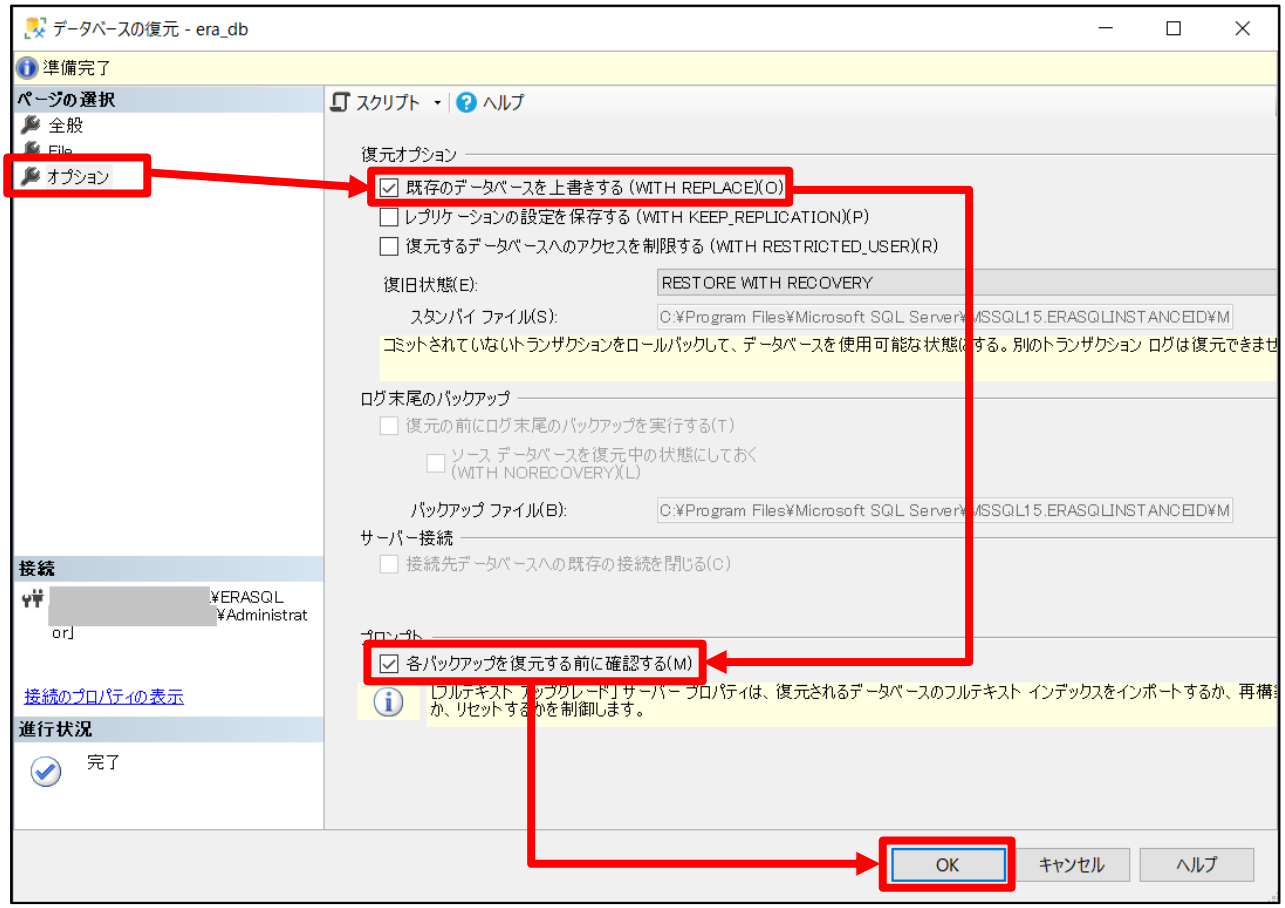


9. 以下の設定になっていることを確認します。
   [転送先]データベース：era_db
   [復元プラン]復元：☑

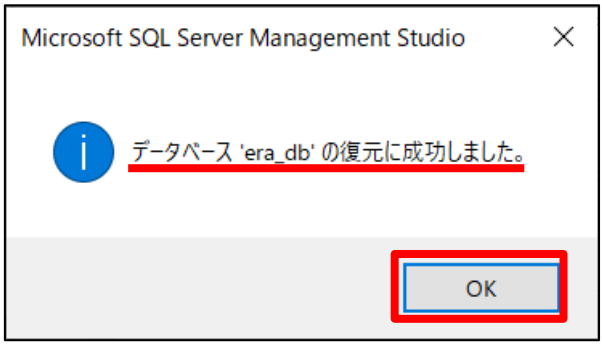


10. [オプション]ページで以下の設定にチェックを入れ、[OK]をクリックするとリストアが開始されます。

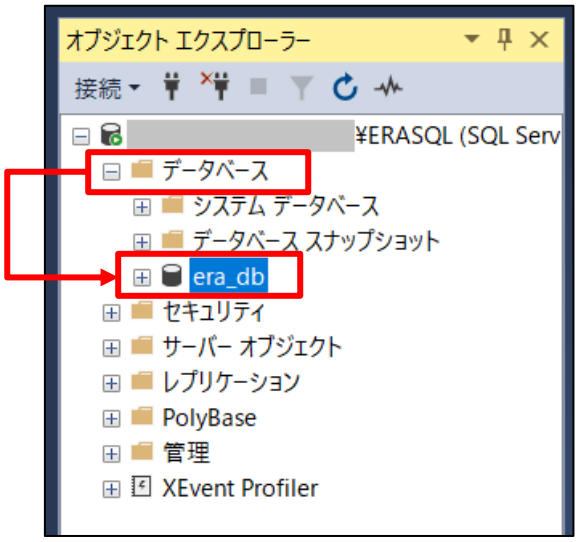
復元オプション
☑既存のデータベースを上書きする(WITH REPLACE)
プロンプト
☑各バックアップを復元する前に確認する



11. 以下メッセージが表示されましたらリストアは正常に終了しておりますので、[OK]をクリックします。
[データベース'era_db'の復元に成功しました。]



12. [データベース]の配下に[era_db]が作成されていることを確認して[Microsoft SQL Server Management Studio 19]を閉じます。



STEP5-3. EP のインストール

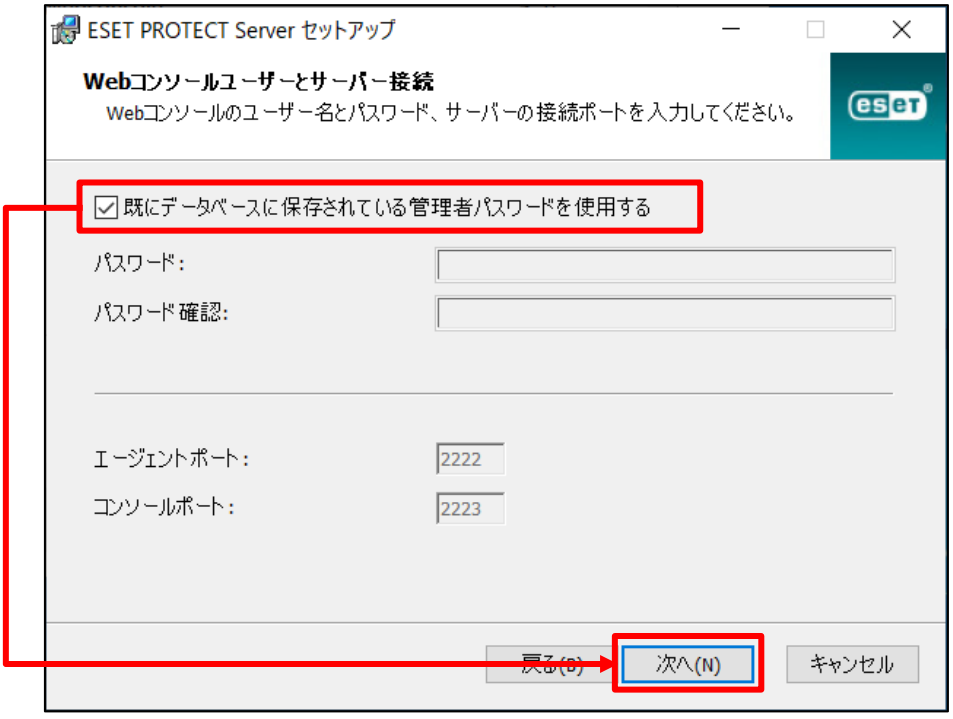
EP のコンポーネントのインストールを再開します。

1. STEP5-1 の手順 9 で最小化していた、ウィンドウを開きます。

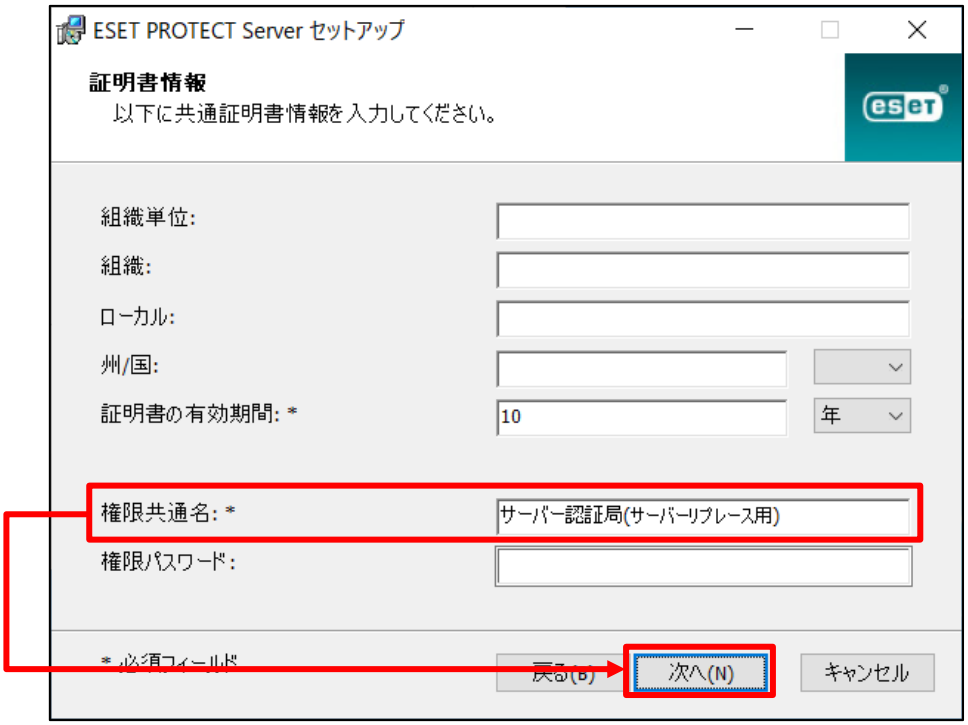
2. ESET PROTECT セットアップウィザードの画面が表示されましたら、[次へ]をクリックします。

3. 以下の画面が表示されましたら、[次へ]をクリックします。

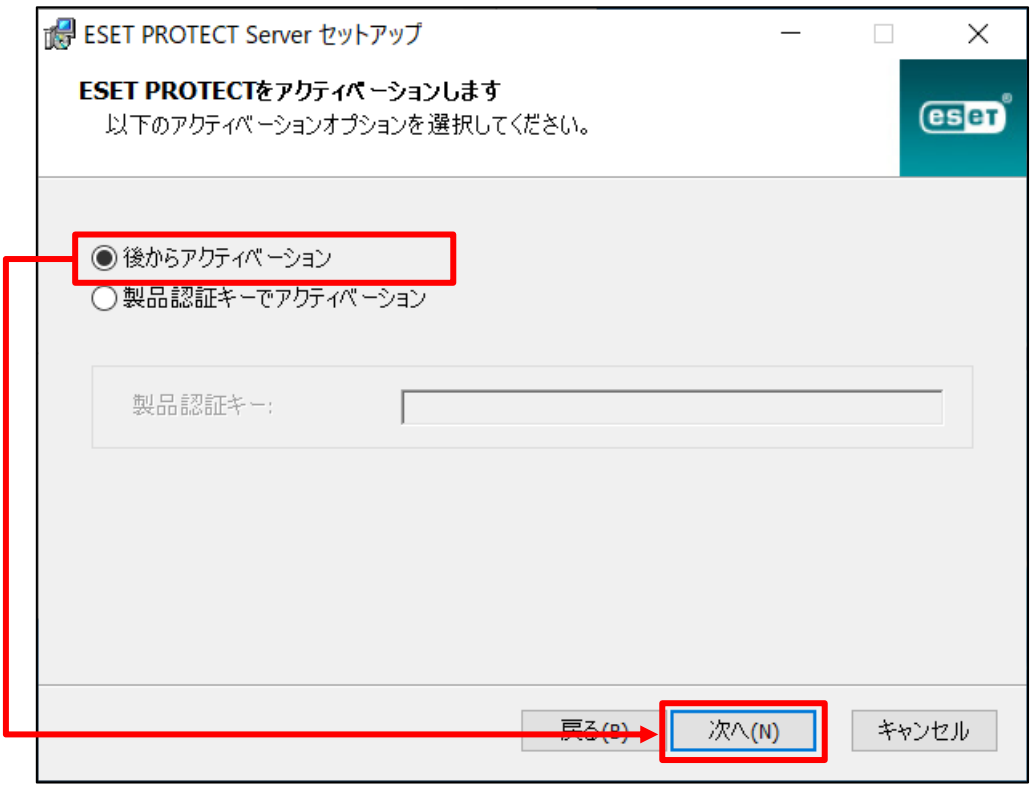
4. [Web コンソールユーザーとサーバー接続]画面にて以下を選択して[次へ]をクリックします。
☑既にデータベースに保存されている管理者パスワードを使用する



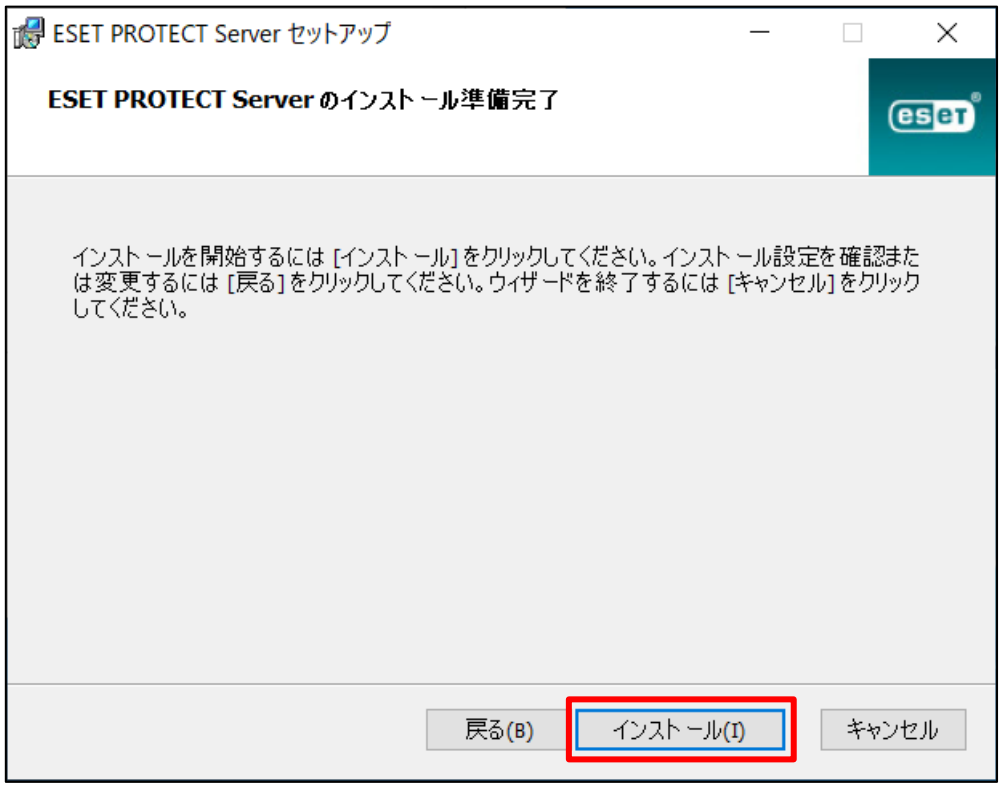
5. [証明書情報]画面にて、権限共通名を**既定の[サーバー認証局]から変更し**、[次へ]をクリックします。
例：サーバー認証局(サーバーリプレイス用)



6. [ESET PROTECT をアクティベーションします]画面にて、以下の項目を選択し、[次へ]をクリックします。
   ⦿後からアクティベーション

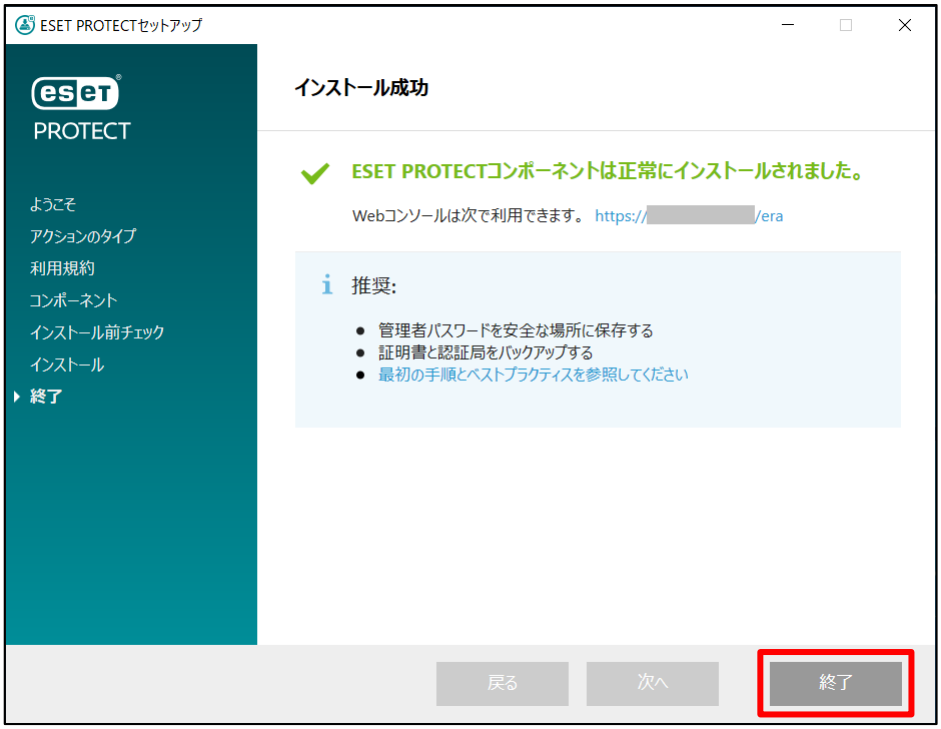


7. [インストール]をクリックして、EP サーバーのインストールを開始します。



8. [ESET PROTECT Server セットアップウィザードが完了しました]と表示されましたら、[完了]をクリックします。

9. 全てのコンポーネントがインストールされると以下のような画面が表示されます。[終了]をクリックして、インストールを終了してください。



以上で、新サーバーへのリストアと EP のインストールは終了です。

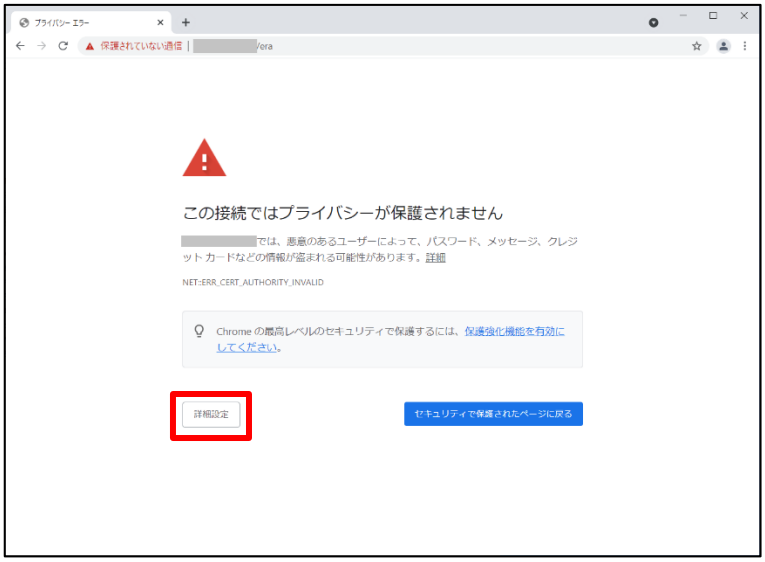
続いては、EP サーバーのセットアップを行います。

10. ［STEP6］ EP サーバーのセットアップ

STEP6-1. EM エージェントの証明書変更

新サーバーにインストールされた EM エージェントは、インストール時に設定した証明書を使用して接続しているため、ポリシー機能を使用して旧サーバーで使用していた証明書への変更を行います。

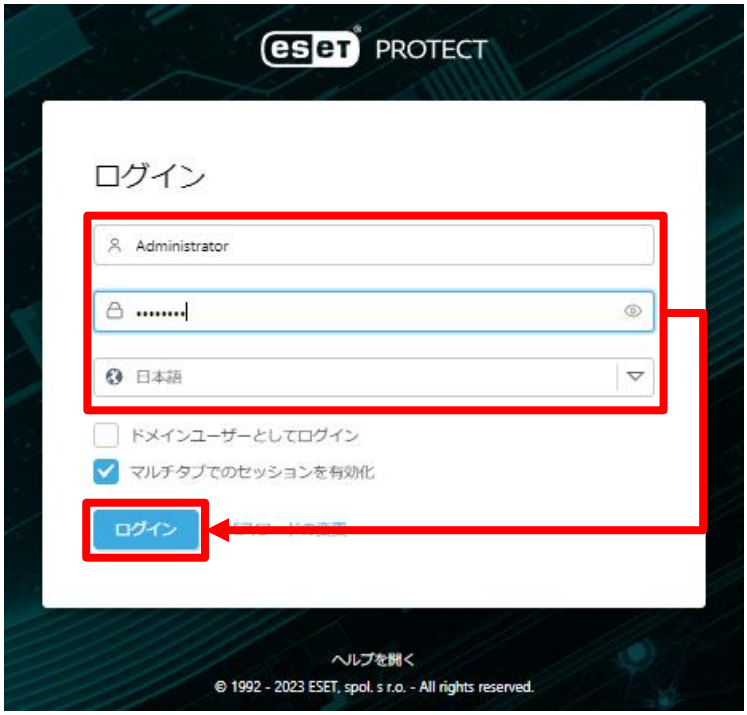
1. EP にアクセスし、EP の Web コンソールを開きます。
   [詳細設定]をクリックします。
   ※本手順書では、Google Chrome を利用します。



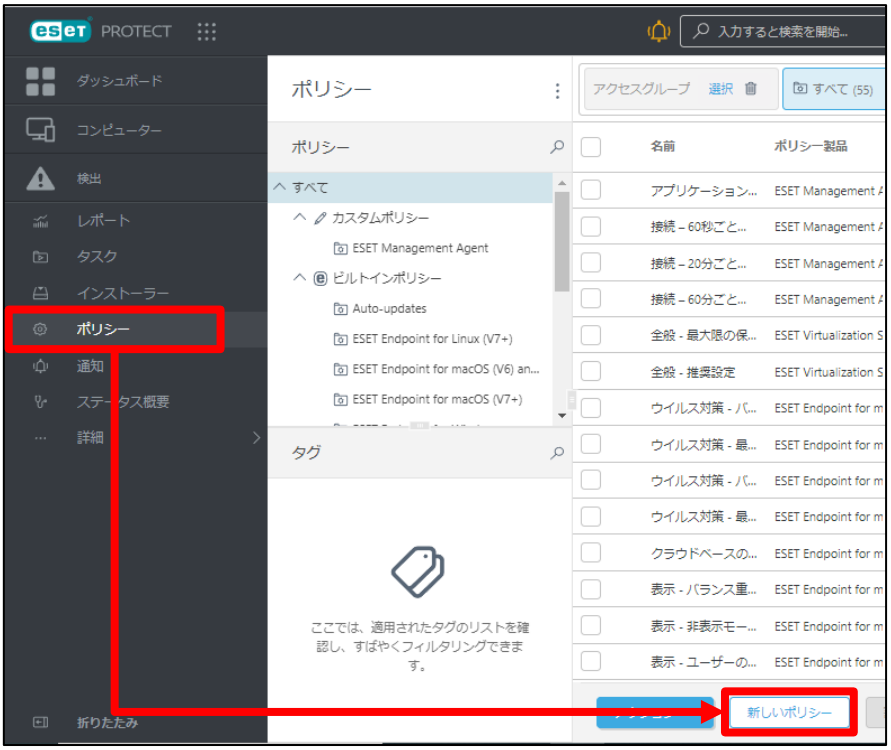
2. [<EP の IP アドレス>にアクセスする(安全ではありません)]をクリックします。

※ここでは、EP のインストール時に独自に作成したセキュリティ証明書を利用しているため、管理画面アクセス時に上記の注意画面が表示されます。
※お使いのブラウザにより表示内容が異なります。

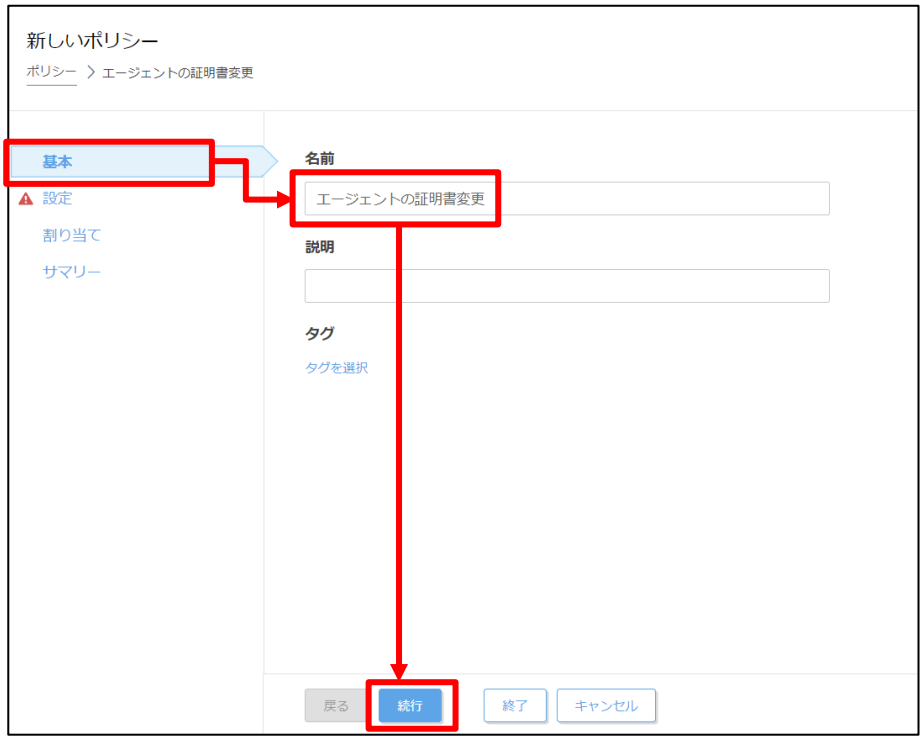
3. 言語を日本語に設定し、旧サーバーで使用していたユーザー名とパスワードを入力し、ログインをクリックします。



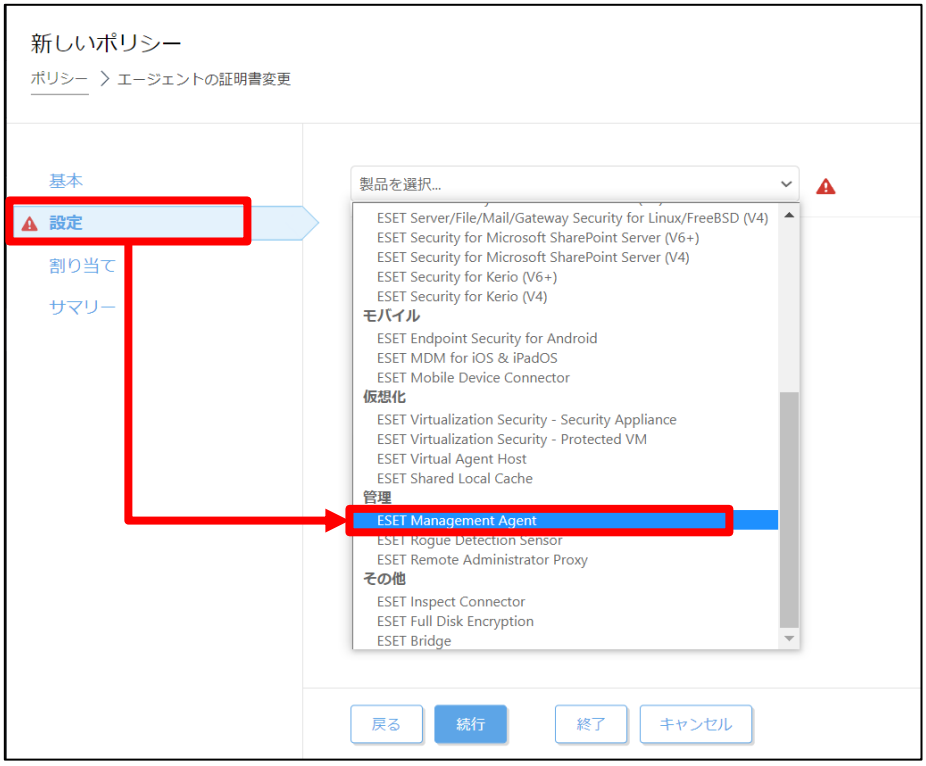
4. 画面左メニューから、[ポリシー]-[新しいポリシー]をクリックします。



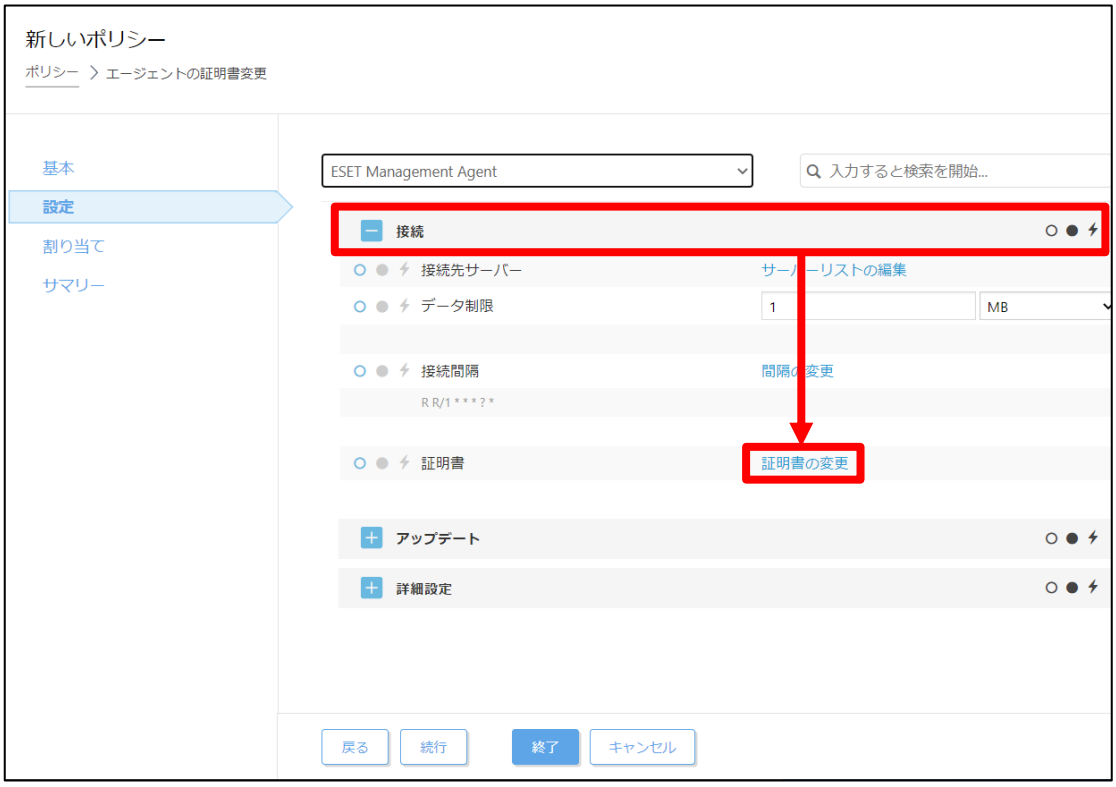
5. [基本]では、ポリシーの[名前]を入力し、[続行]をクリックします。
※[説明]と[タグ]の設定は任意です。



6. [設定]の[製品を選択...]欄にて[ESET Management Agent]を選択します。

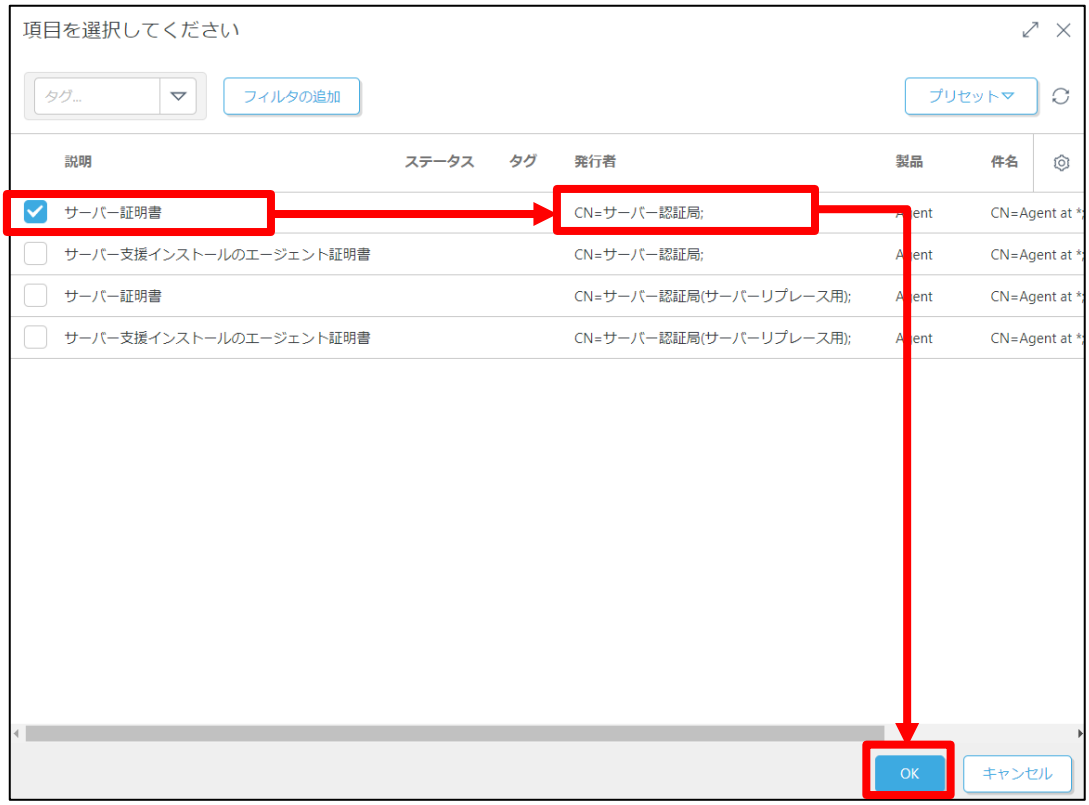


7. [接続]-[証明書の変更]をクリックします。



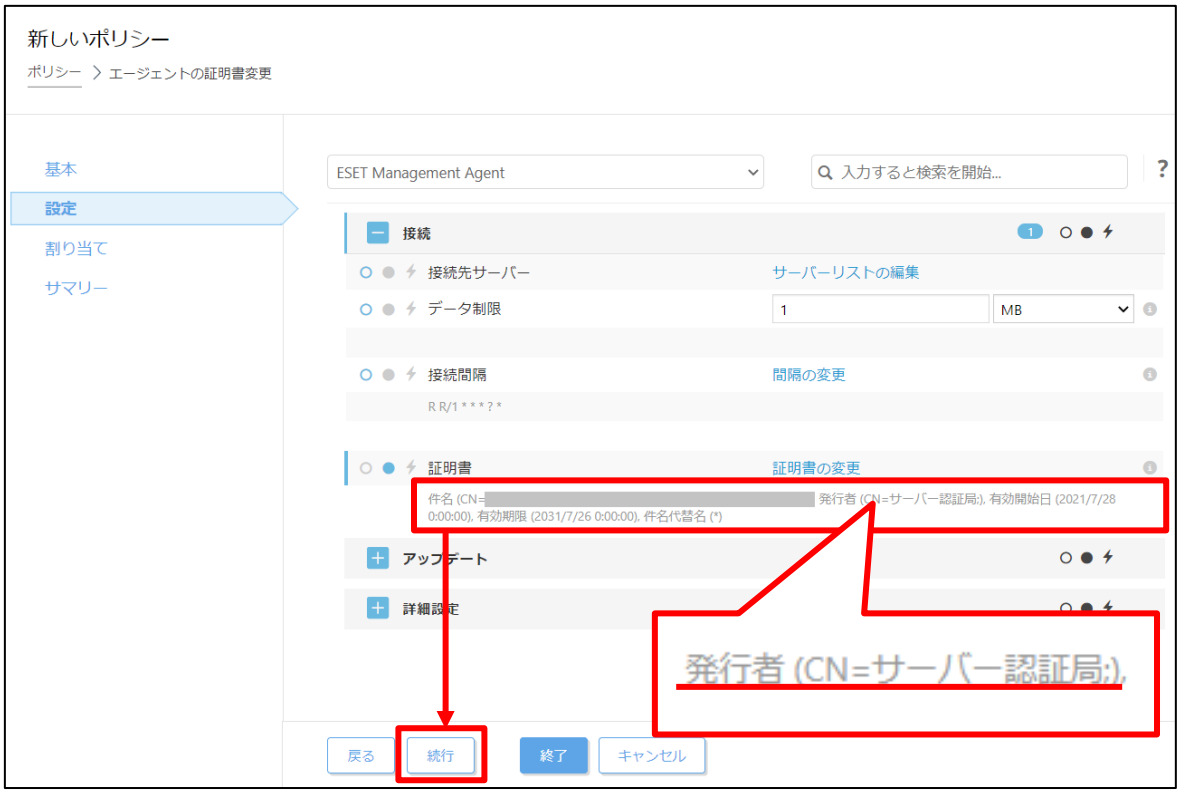
8. [ピア証明書]の項目で[ESET 管理証明書]が選択されていることを確認して[証明書リストを開く]をクリックします。

9. [サーバー証明書]かつ、発行者が**旧サーバーで使用していたサーバー証明書(既定は CN=サーバー認証局)**を選択して、[OK]をクリックします。

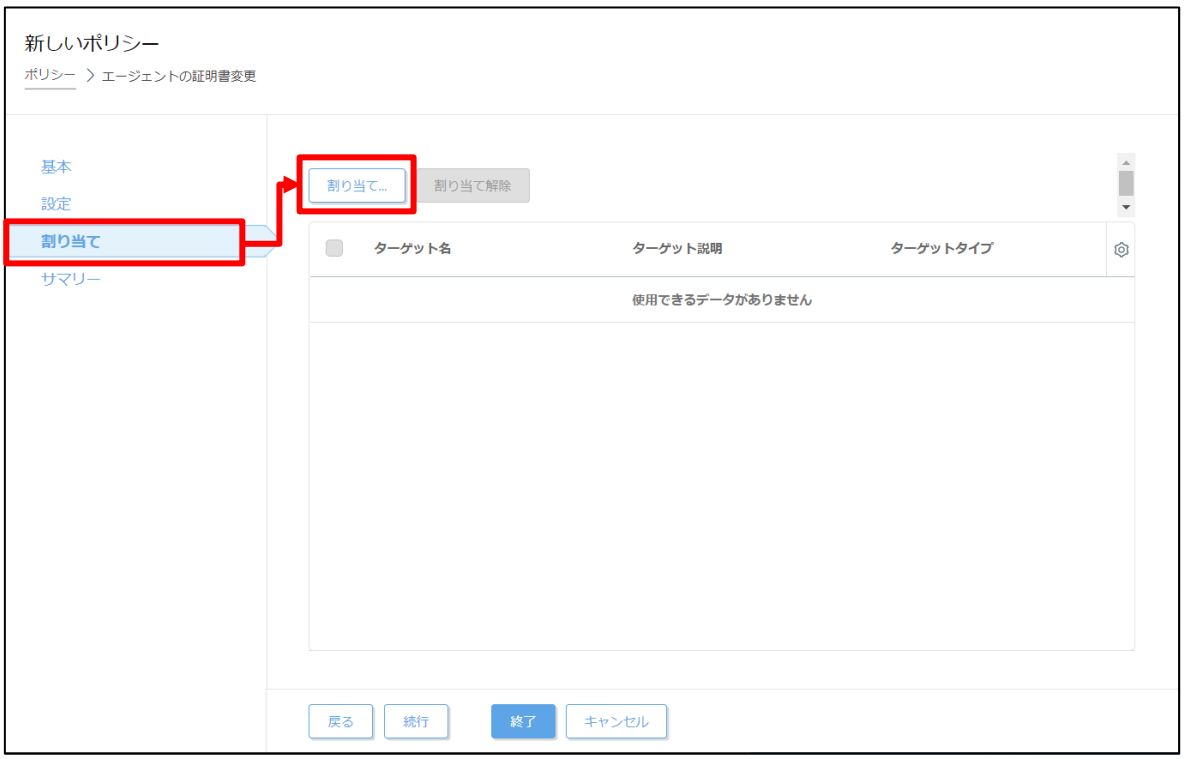


10. 旧サーバーの ESET Management Agent の証明書にパスワードを設定している場合は、[証明書パスワード]を入力してから、[OK]をクリックします。

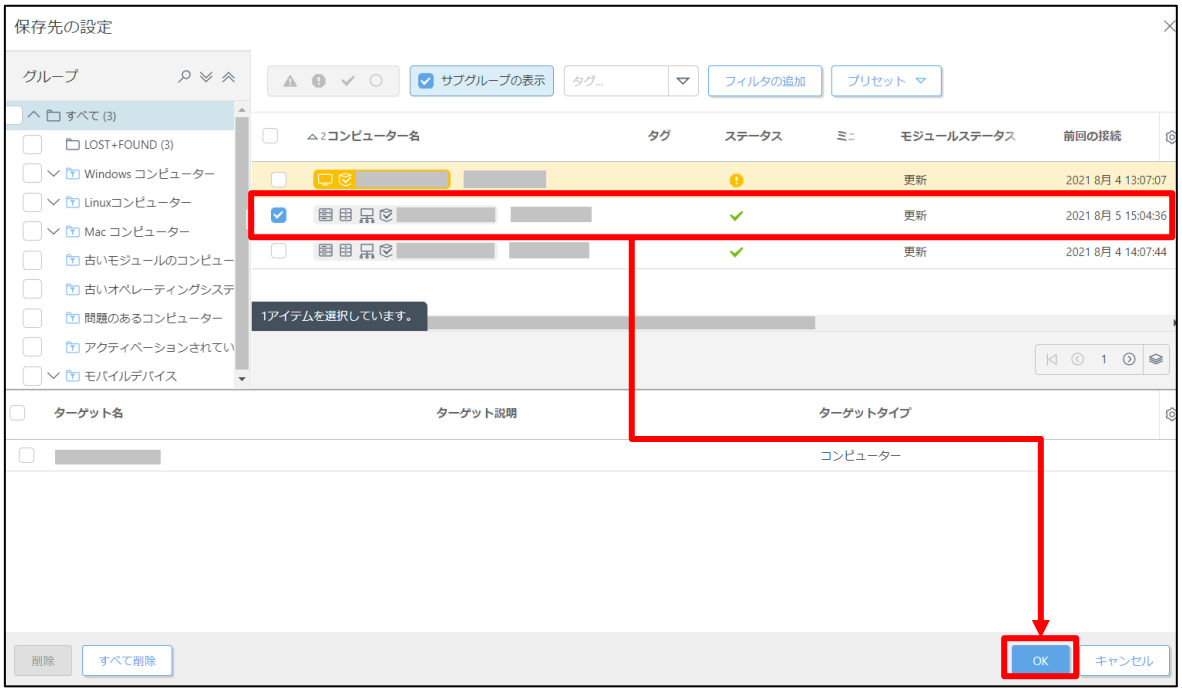
11. 手順９で選択した証明書に変更されていることを確認し、[続行]をクリックします。



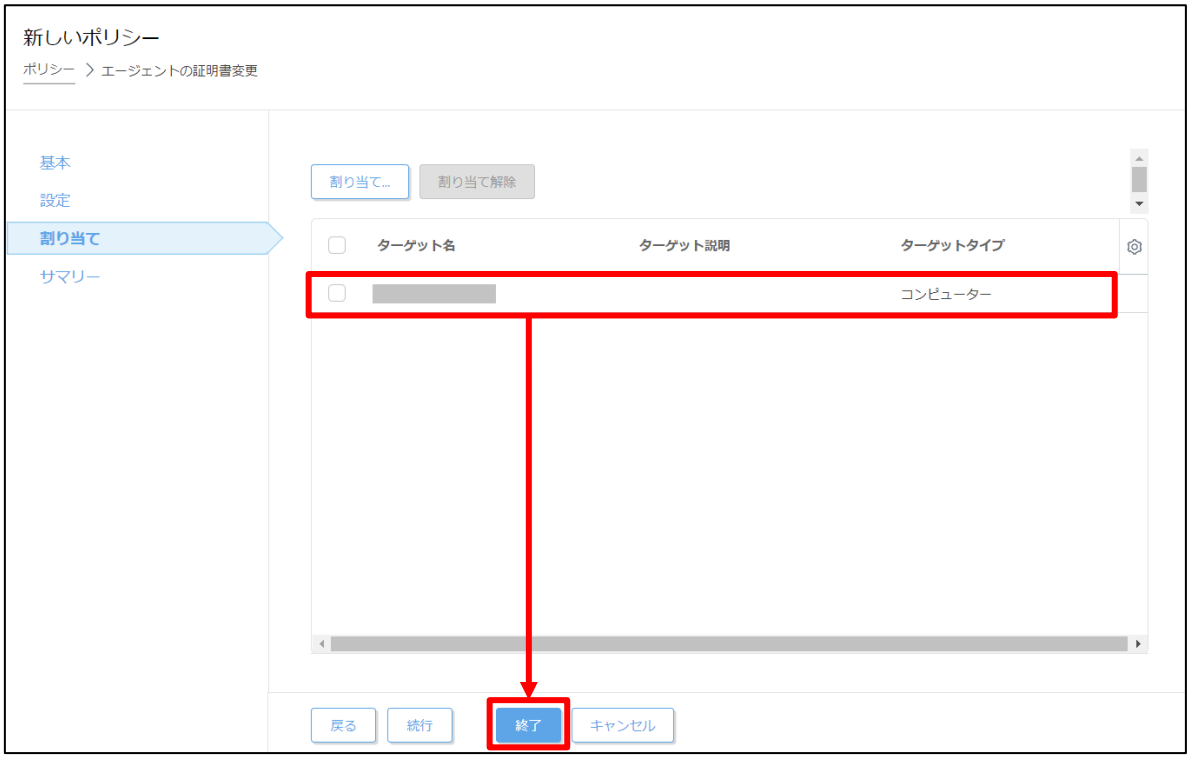
12. [割り当て]より、[割り当て...]をクリックします。



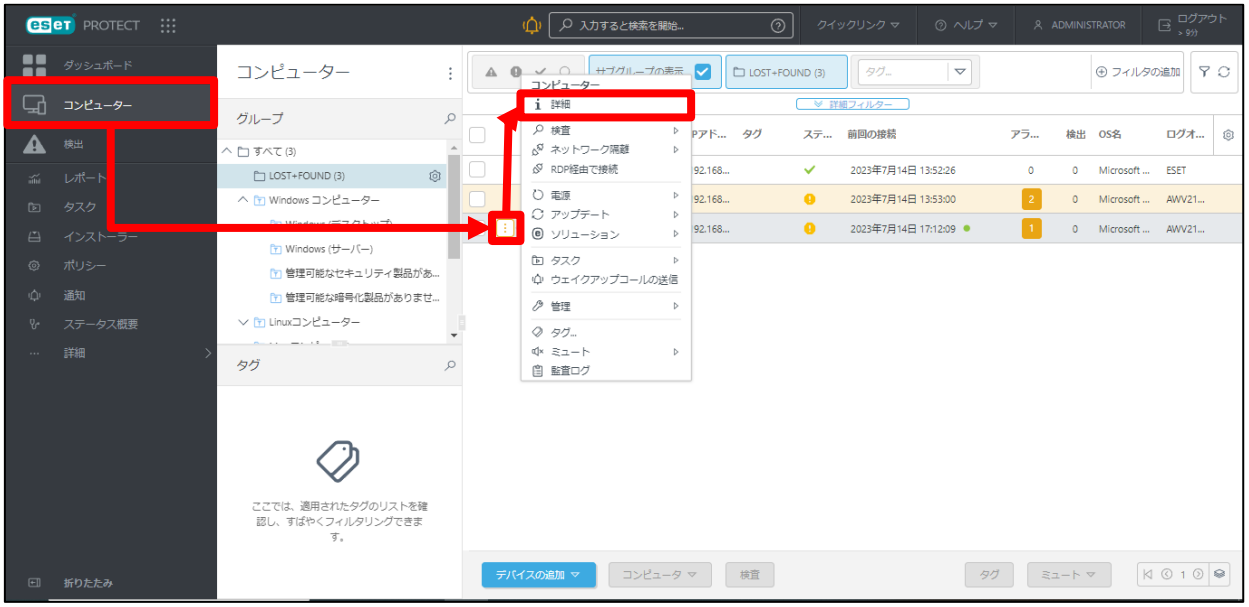
13. 新サーバーの EP にチェックを入れ、[OK]をクリックします。
※旧サーバーのコンピュータ名と IP アドレスと等しいため、[前回の接続]が最新のコンピュータを選択してください。



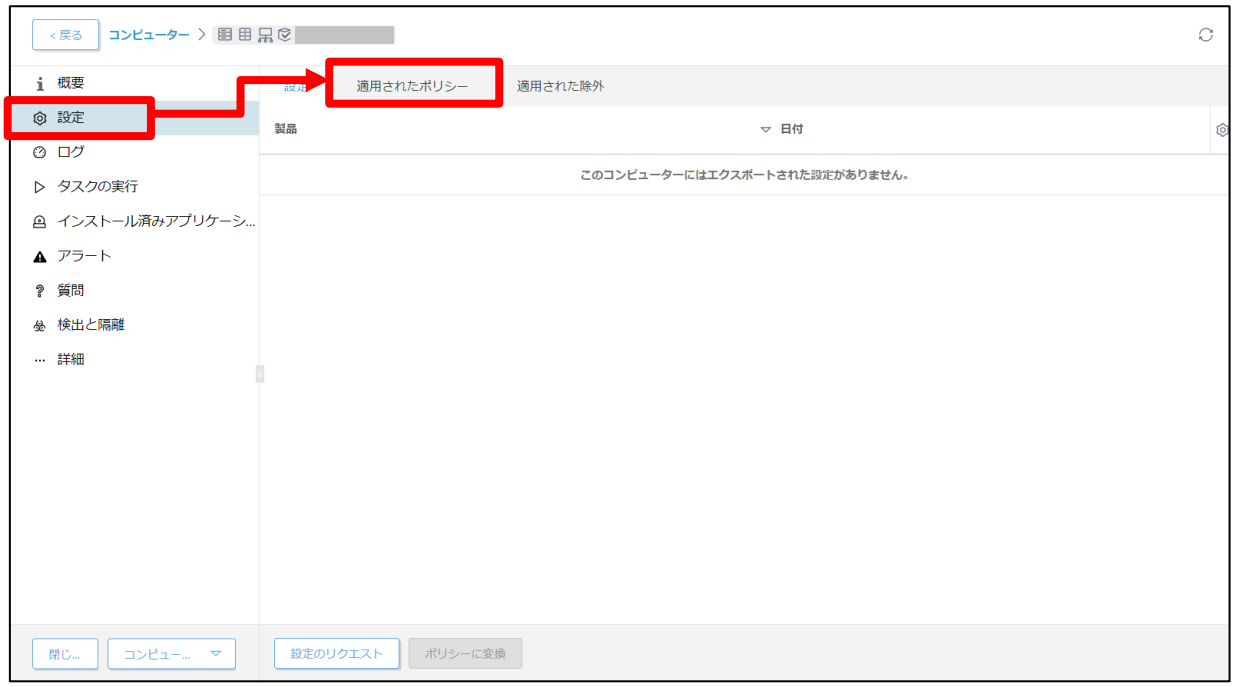
14. 新サーバーの EP が[ターゲット名]に追加されていることを確認して、[終了]をクリックします。



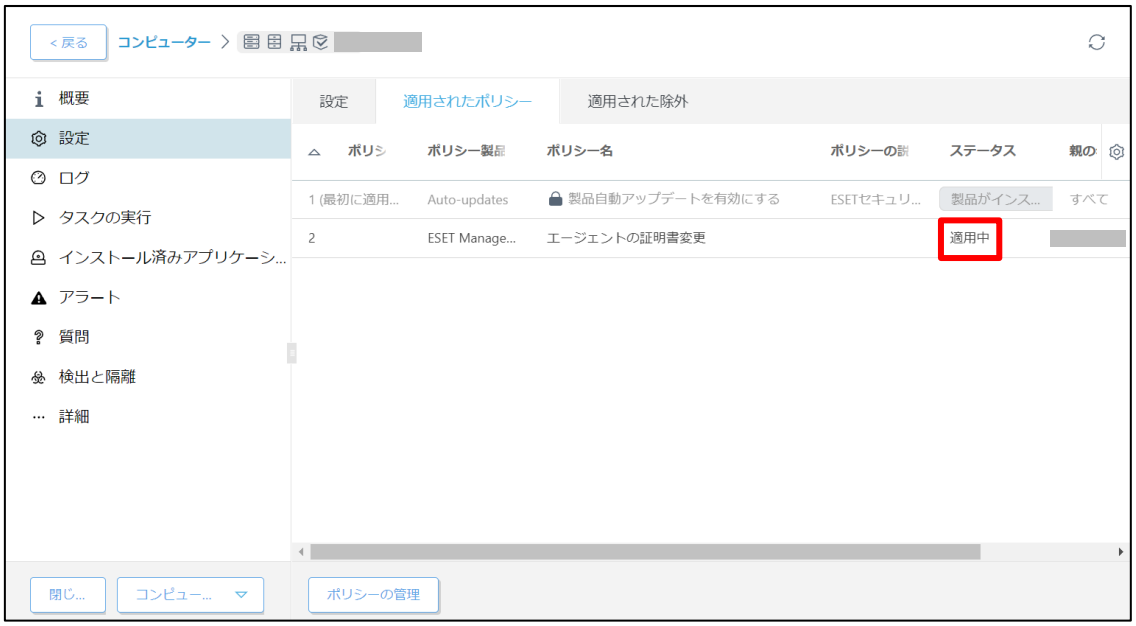
15. 画面左メニューの[コンピューター]より、新サーバーの EP をクリックして[詳細]を選択します。



16. [設定]-[適用されたポリシー]をクリックします。



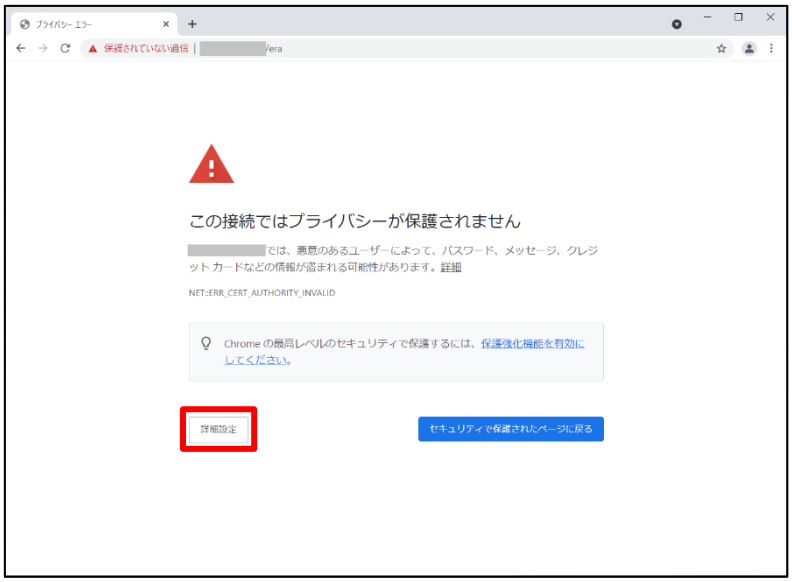
17. 手順 14 で割り当てたポリシーが[適用中]になっていることを確認します。
※エージェントの接続間隔に応じて、ポリシーの反映に時間を要する場合があります。(既定 1 分)



STEP6-2. EP サーバーの証明書変更

EP サーバーに設定されているサーバー証明書が STEP5-3 で EP をインストールした際に作成された証明書となっているため、旧サーバーで使用していた証明書に変更します。

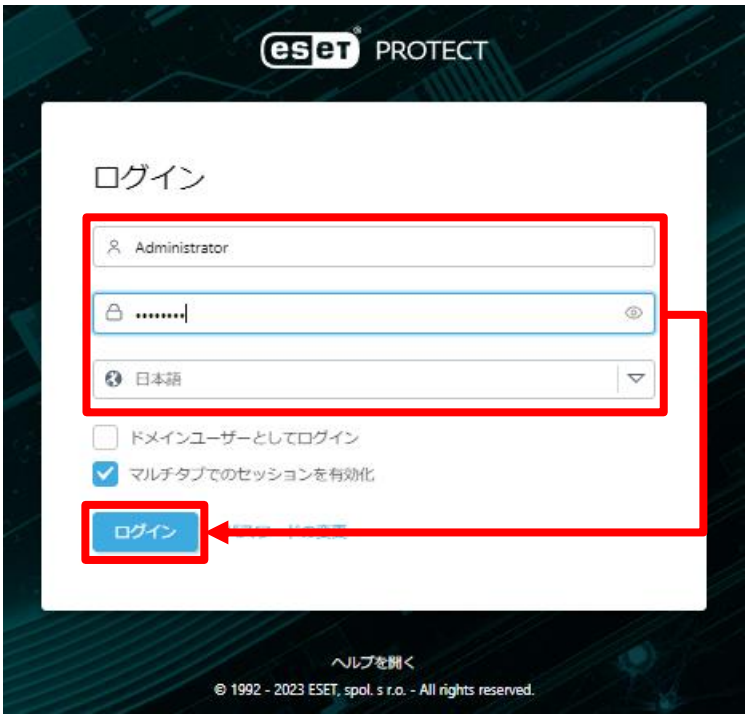
1. EP にアクセスし、EP の Web コンソールを開きます。
   [詳細設定]を開きます。
   ※本手順書では、Google Chrome を利用します。



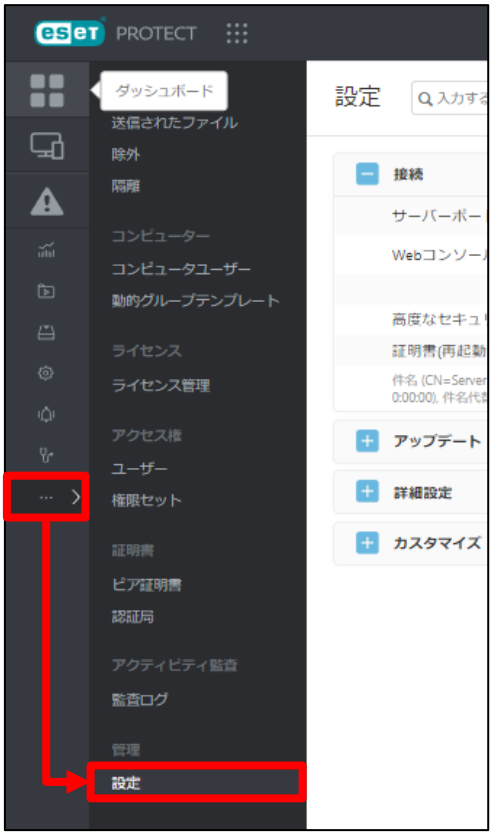
2. [<EP の IP アドレス>にアクセスする(安全ではありません)]をクリックします。

※ここでは、EP のインストール時に独自に作成したセキュリティ証明書を利用しているため、管理画面アクセス時に上記の注意画面が表示されます。
※お使いのブラウザにより表示内容が異なります。

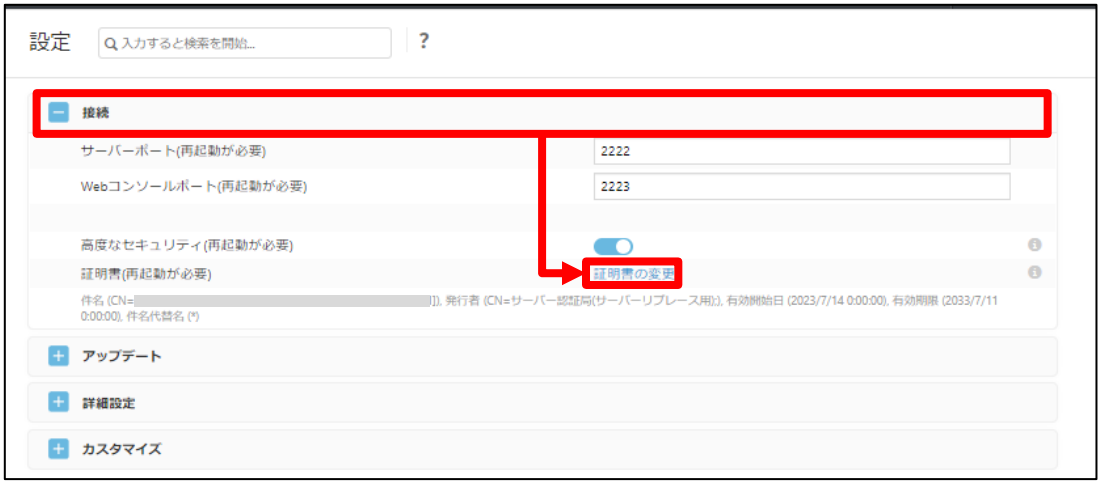
3. 言語を日本語に設定し、旧サーバーで使用していたユーザー名とパスワードを入力し、ログインをクリックします。



4. 画面左メニューから、[詳細]-[管理]の下の[設定]をクリックします。



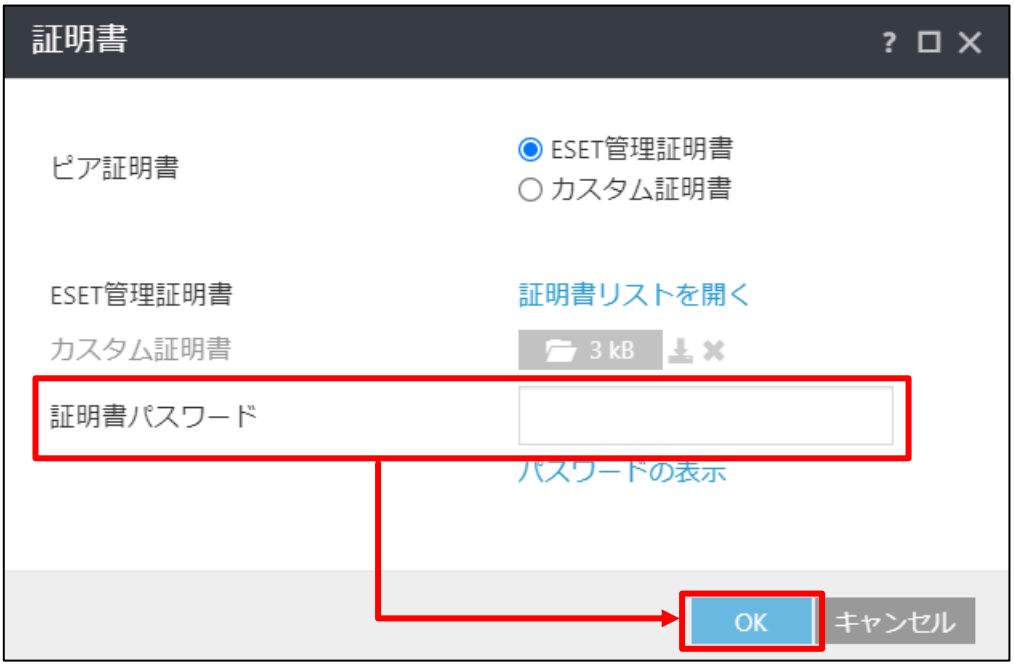
5. [接続]-[証明書の変更]をクリックします。



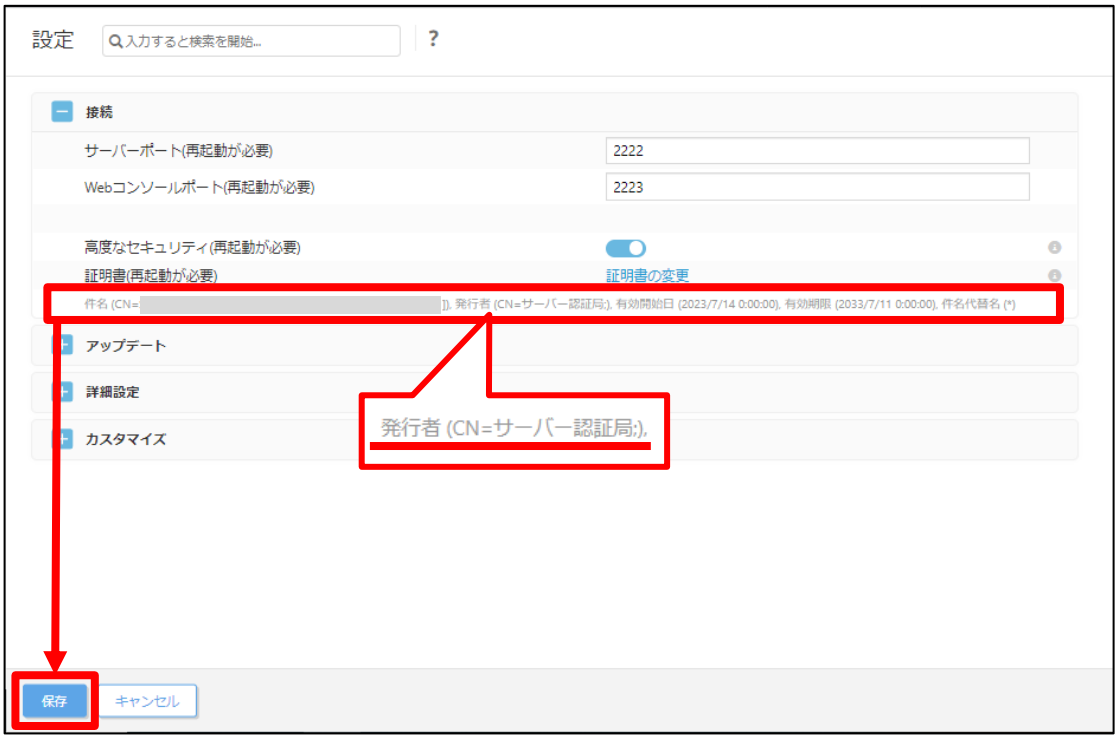
6. [ピア証明書]で[ESET 管理証明書]が選択されていることを確認して[証明書リストを開く]をクリックします。

7. 発行者が**旧サーバーで使用していたサーバー証明書(既定は CN=サーバー認証局)**を選択して[OK]をクリックします。

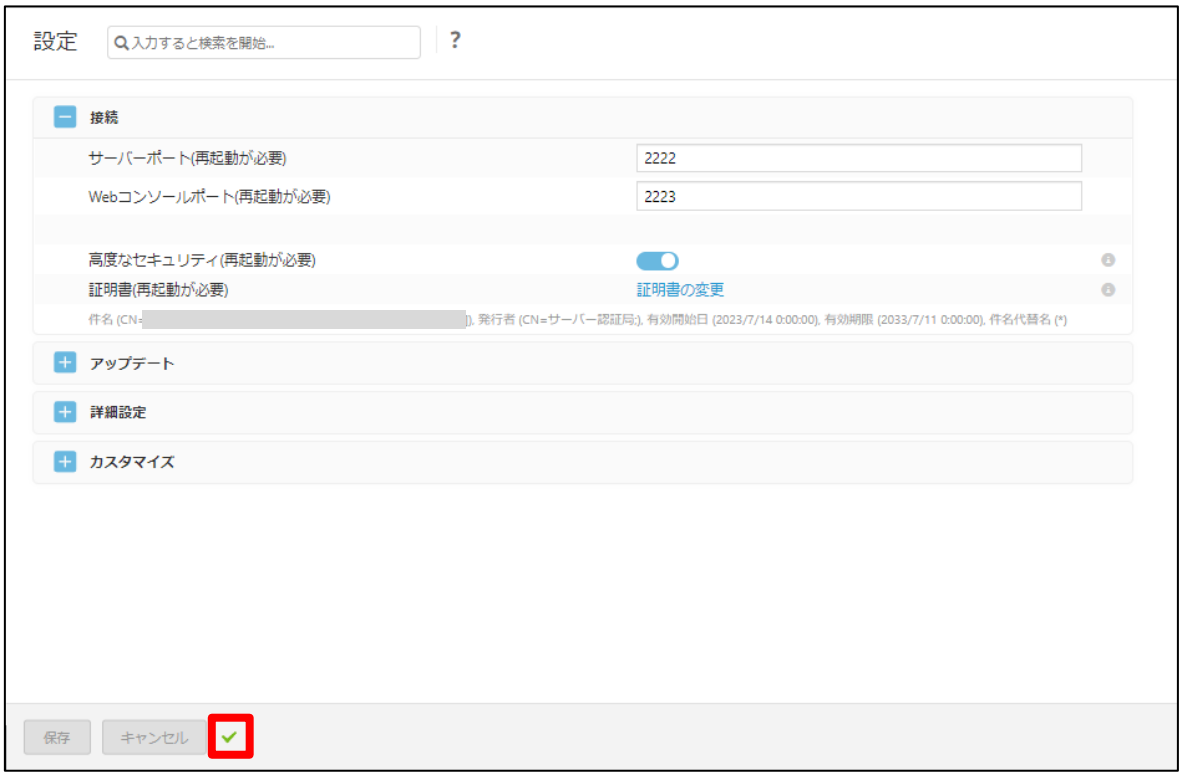
8. 旧サーバーの証明書でパスワードを設定している場合は、[証明書パスワード]を入力してから、[OK]をクリックします。



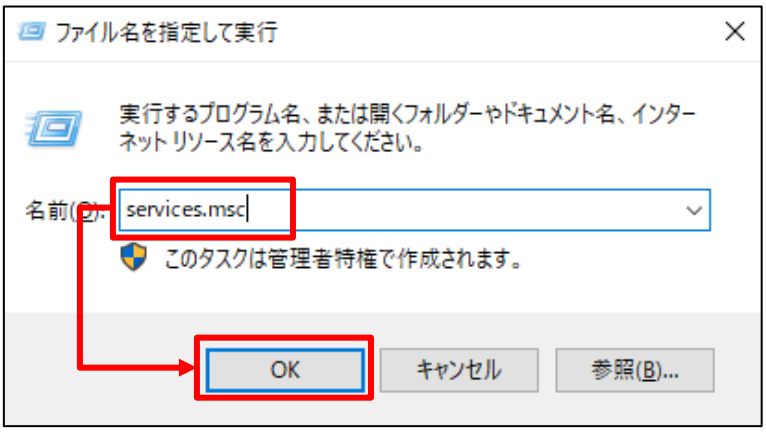
9. 手順 7 で選択した証明書(既定は CN=サーバー認証局)に変更されていることを確認して[保存]をクリックします。



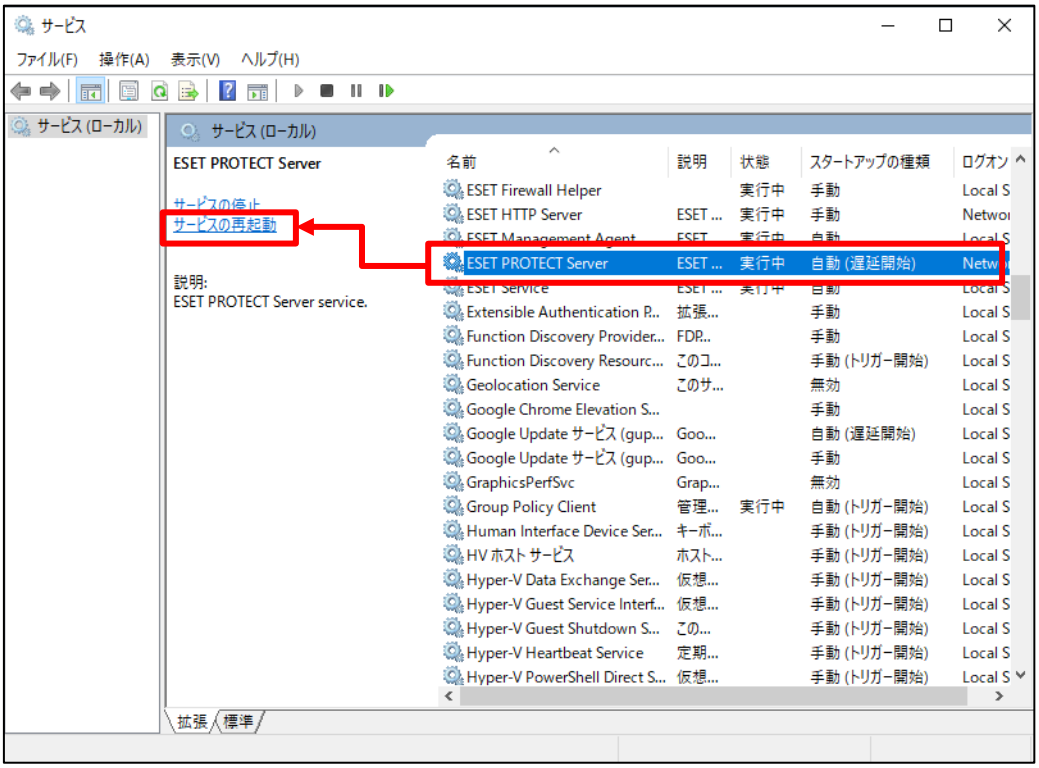
10. チェックが付いていることを確認して、ブラウザを閉じます。



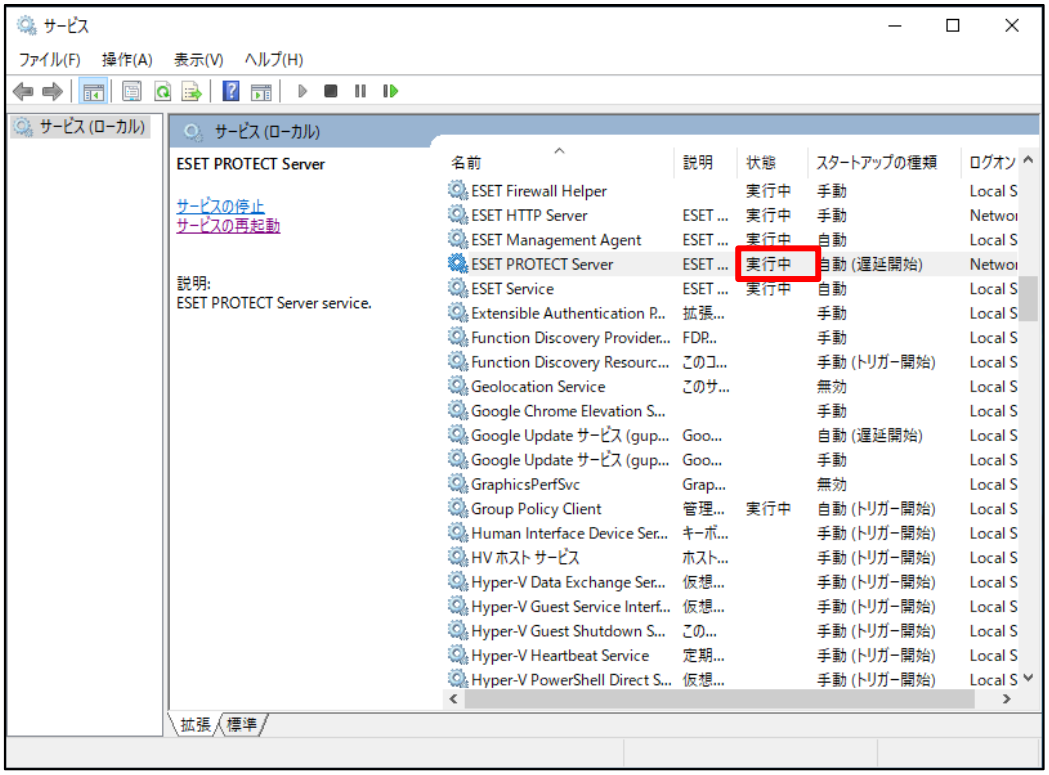
11. [Windows キー] + [R] で [ファイル名を指定して実行] ウィンドウを開き [services.msc] と入力し、[OK] をクリックします。



12. [ESET PROTECT Server]サービスを選択し、[サービスの再起動]をクリックします。



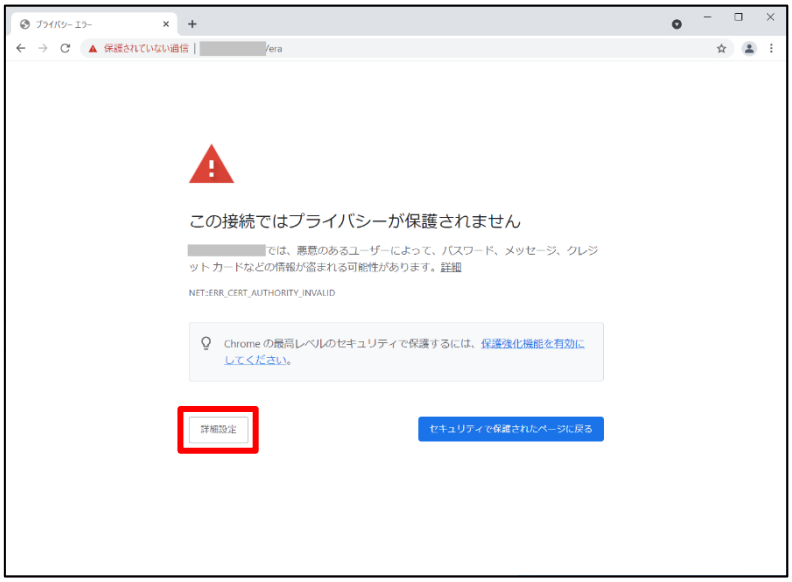
13. [ESET PROTECT Server]サービスの[状態]が[実行中]になっていることを確認します。



STEP6-3. クライアントの接続確認

旧サーバーで管理していたクライアントが正常に新サーバーに接続できているかを確認します。

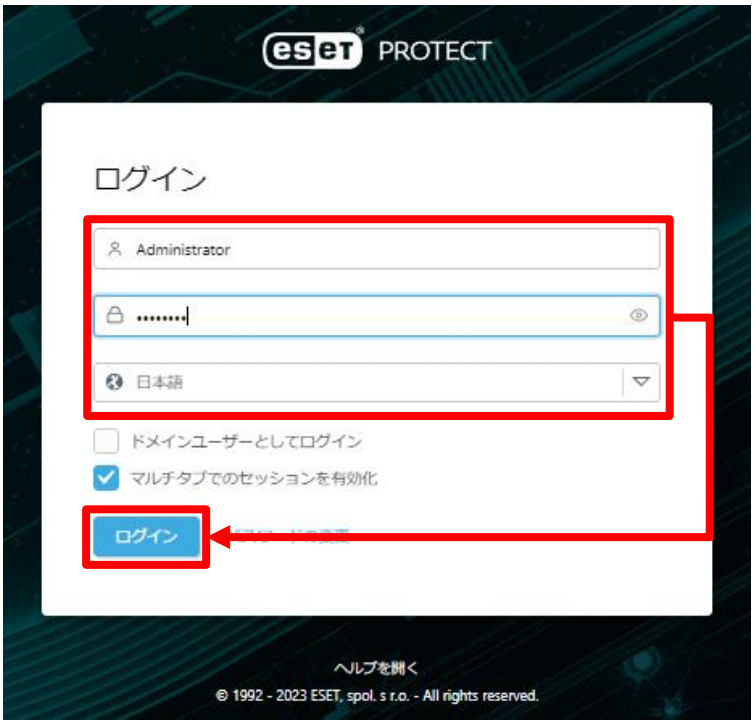
1. EP にアクセスし、EP の Web コンソールを開きます。
   [詳細設定]をクリックします。
   ※本手順書では、Google Chrome を利用します。



2. [<EP の IP アドレス>にアクセスする(安全ではありません)]をクリックします。

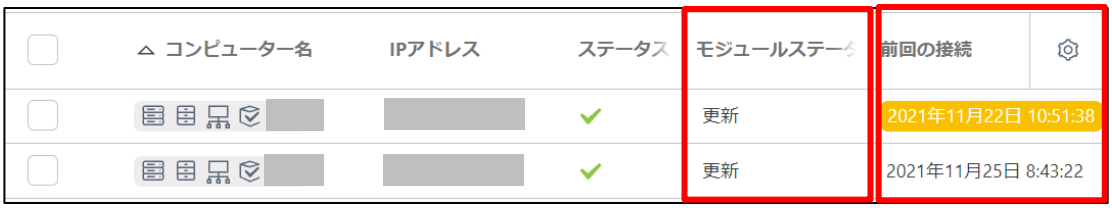
※ここでは、EP のインストール時に独自に作成したセキュリティ証明書を利用しているため、管理画面アクセス時に上記の注意画面が表示されます。
※お使いのブラウザにより表示内容が異なります。

3. 言語を日本語に設定し、旧サーバーで使用していたユーザー名とパスワードを入力し、ログインをクリックします。



4. 画面左メニューの[コンピューター]をクリックします。

5. コンピューターの一覧にて[モジュールステータス]が[更新]されていること、また、[前回の接続]の日時が更新されていることを確認します。モジュールステータスが確認できない場合は、画面右側の歯車マークより「列の編集」をクリックし、「モジュールステータス」を表示させてください
※コンピュータの一覧には、旧サーバの情報が残っておりますが、旧サーバーの管理が不要であれば、削除してください。



最終的に旧サーバーで管理を行っていた全てのクライアントが新サーバーに接続できていることが確認できれば、サーバーリプレイスに伴う、ESET PROTECT 移行作業は終了です。

弊社 ESET サポートサイト情報ページにて、製品機能・仕様・操作手順などの情報を公開していますので、ご利用ください。

■ESET サポート情報　法人向けサーバー・クライアント用製品
https://eset-support.canon-its.jp/?site_domain=business

ご不明な点などがございましたら、上記の Web ページをご確認いただくか下記 Web ページより弊社のサポートセンターまでお問い合わせください。

■お問い合わせ窓口（サポートセンター）のご案内
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/883?site_domain=business